Nikon

F80D
F80S

すぐに撮影したい方は、P.17〜P.33の「撮影の基本ステップ」をご覧ください。

使用説明書

Jp

F80D F80S (Jp)

各部の名称

CE “CEマーキング”について

CEはヨーロッパ協定（Conformité Européenne）の意味で、マーキングはその製品が適応されるEC規定をすべて満たしていることを表しています。

視度調節レバー（☞ P.68）

接眼目当て（☞ P.68）

ファインダー接眼窓

シンクロモード
ボタン（☞ P.82）

フィルム巻き戻し
ボタン（☞ P.38）

オートブラケティング
ボタン（☞ P.63）

裏ぶたロック解除
レバー（☞ P.22）

フィルム確認窓

データバック（☞ P.92）

三脚ネジ穴

AE/AFロック
ボタン（☞ P.46/60）

測光モードセレクト
ダイヤル（☞ P.50）

メインコマンドダイヤル
（☞ P.6）

フォーカス
エリア
セレクター
（☞ P.44）

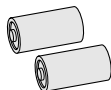
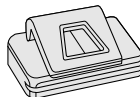
電池ぶた
開閉ノブ
（☞ P.18）

フォーカスエリア
セレクター
ロックレバー
（☞ P.44）

AFエリアモード
セレクトダイヤル（☞ P.41）

※各部の名称はF80Dで説明しています。F80Sは裏ぶたの形状が異なりますので、P.92をご覧ください。

付属品

ボディキャップ ☞ P.21

3Vリチウム電池2本 ☞ P.18

アイピースキャップ DK-5 ☞ P.70

ストラップ（ボディ外箱に取り付け方が記載されています）

表示パネル／ファインダーについて

■表示パネル（説明のため全ての表示を点灯した状態です）

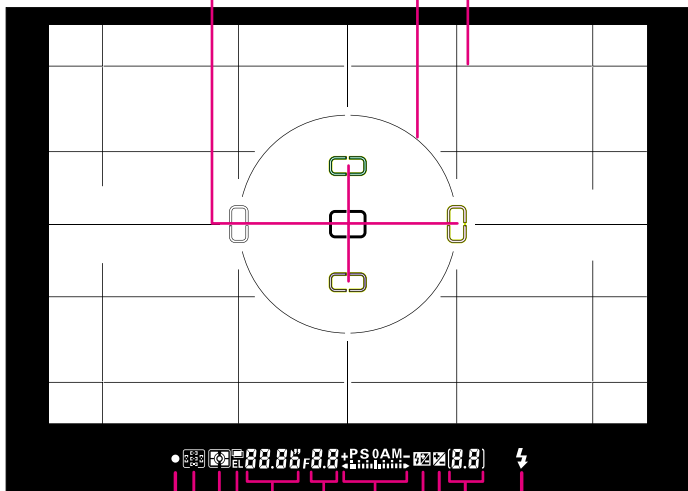
メモ　バリブライト・フォーカスエリア／マルチディスプレイ・スクリーンについて

このカメラはフォーカスエリアを選択すると、選択されたフォーカスエリアがファインダースクリーン上に鮮明に表示される、**バリブライト・フォーカスエリア**を装備しています。この機能により、周囲が明るい場合はフォーカスフレームを黒く表示し、周囲が暗い場合にはフォーカスフレームを瞬間的に赤く照明しますので、選択されたフォーカスエリアを素早く確認することができます。さらに、カスタムセッティング（☞ P.73）により、構図用の格子線を表示させる**マルチディスプレイ・スクリーン**も装備しています。この構図用の格子線は撮影時の構図決定に効果的で、風景撮影やPCニッコールを使用してあおり撮影などを行うときに便利です。

※これらの機能に使用されている液晶の特性により、選択されたフォーカスエリアから外側に延びる細い線が見える場合やフォーカスフレームを照明する際にファインダー内が赤くなる場合がありますが、いずれも故障ではありません。

！注意　高温・低温下での液晶表示について

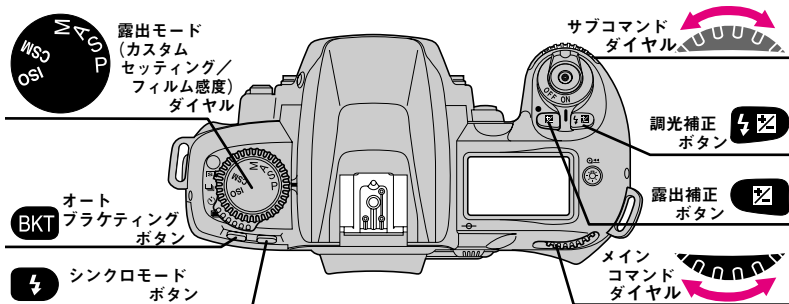
表示パネルとファインダー内に使用されている液晶表示は、高温下では黒くなり、低温下では液晶の応答速度が多少遅くなることがあります。一方、バリブライト・フォーカスエリアとマルチディスプレイ・スクリーンに使用されている液晶表示は、高温下では薄く、低温下では濃くなって液晶の応答速度が遅くなる特性がありますが、いずれの場合も常温時には正常に戻ります。

■ファインダー

注意　ファインダーについてのご注意

カメラに電池が入っていない、あるいは電池容量が全くない状態では、ファインダー全体が暗くなっていますが、故障ではありません。新しい電池を入れると明るくなります。

コマンドダイヤルについて

■このカメラには2種類のコマンドダイヤルがついています。各操作ボタンと併用、または単独操作で次のような機能がセットできます。

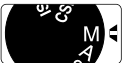
※すぐに撮影をしたい方はP.17〜33の「撮影の基本ステップ」をご覧ください。

■フィルム関係

・フィルム感度のセット ☞ P.38

■露出関係

・露出モードがPの時の
プログラムシフト ☞ P.53

・露出モードがSの時のシャッター
スピードのセット※ ☞ P.54

・露出モードがMの時のシャッター
スピードのセット※ ☞ P.58

・露出モードがAの時の
絞り値のセット※ ☞ P.56

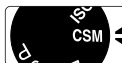
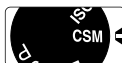
・露出モードがMの時の
絞り値のセット※ ☞ P.58

・露出補正量のセット ☞ P.62

・オートブラケティングのセット ☞ P.63

・オートブラケティングの撮影枚数と補正ステップのセット ☞ P.63

カスタムセッティング関係

・カスタムセッティングのメニューナンバーの選択 ☞ P.72

・カスタムセッティングのセット ☞ P.72

スピードライト関係

・シンクロモードのセット ☞ P.82

・調光補正量のセット ☞ P.87

※ CSM 12：通常のコマンドダイヤル操作とは逆に、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードのセット（S［シャッター優先オート］、M［マニュアル］時）、メインコマンドダイヤルで絞り値のセット（A［絞り優先オート］、M［マニュアル］時）が行えるように変更できます（☞ P.76）。

はじめに

■このたびはニコンF80D／F80Sをお買い上げいただきありがとうございます。ご使用の前にこの「使用説明書」をよくお読みのうえ、十分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
このカメラには、次のような特長があります。

- 初心者からハイアマチュアの方まで、多彩な撮影が楽しめるスピードライト内蔵の一眼レフカメラ。
- 5つのフォーカスフレームを有効に活用し、特に動きの不規則な被写体でも精度の高いピント合わせを可能にするダイナミックAFモード（☞ P.41）。
- 選択したフォーカスフレームをファインダースクリーン上にクリアに表示する、バリブライト・フォーカスエリア（☞ P.4）。
- ほとんどのシーンで簡単かつ効果的に適正露出を得ることが可能な、ニコン独自の3D-10分割マルチパターン測光（☞ P.50）。
- カメラの各機能の内容を撮影者の好みに合わせて使いやすくセットすることが可能な、カスタムセッティング機能（☞ P.71）。

安全上のご注意と表示について

製品を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、重要な内容を記載しています。
表示と意味は次のようになっています（詳細はP.14～16をご覧ください）。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合は電池を取り出す）が描かれています。

ご確認ください／表記上のおことわり

■ 保証書とカスタマ登録カードについて

この製品には保証書とカスタマ登録カードが添付されていますのでご確認ください。

・保証書の詳細につきましては、P.105の「アフターサービスと保証について」をご覧ください。

■ 使用説明書の再発行は当社サービス機関へ

使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、裏面の当社サービス機関にて新しい使用説明書をお求めください（有料）。

■ 撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）をするときには、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能するかを事前に確認してください。

・本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用及び利益喪失等に関する損害）についての補償はご容赦願います。

■ 定期的に点検サービスを受けてください

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。

・特に業務用にご使用になる場合は、早めに点検整備を受けてください。

・点検整備を依頼される際は、より安心してご愛用いただけるよう一緒にお使いのレンズやスピードライト等も併せて点検依頼されることをおすすめします。

■ 本製品を安心してご使用いただくために

本製品は、当社製のレンズ及びスピードライトなどのアクセサリーに適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでご使用ください。

・他社製品との組み合わせ使用により、事故、故障などが起こることもございます。

本文中のマークについて

CSM 00：**カスタムセッティングにより、各機能を撮影者自身の好みに合った状態にセットできる内容が書かれています。数字はその機能のメニューナンバーです。**

メモ：**補足的な情報や便利な情報が書かれています。**

! 注意：**注意していただきたいことや守っていただきたいことが書かれています。**

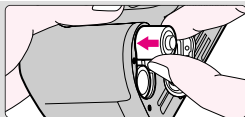
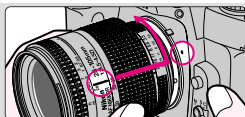
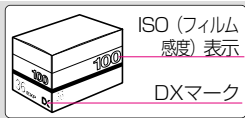
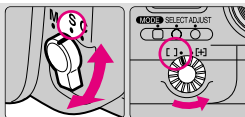
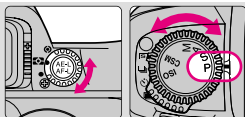
（☞ P.00）：**参照ページが書かれています。**

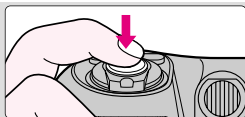
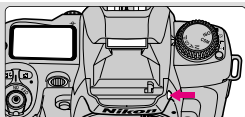
目次

「**撮影の基本ステップ**」：電池、レンズ、フィルム、ピント、測光・露出、構図・撮影と基本的な撮影手順を説明しています。一眼レフカメラを初めてお使いになる方でも、ここを順にお読みいただければ、簡単に撮影が行えます。
「**操作の詳細**」：レンズから露出まで、「撮影の基本ステップ」とほぼ同じ順番で各機能をより詳しく説明しています。簡単な撮影方法をマスターした後、各機能の詳細へとステップアップすれば、高度なテクニックを必要とする撮影も行えます。
「**スピードライト撮影**」：内蔵スピードライトおよび別売りスピードライトによる撮影について説明しています。暗いところはもちろん、明るいところでも自由自在にスピードライトを活用した撮影が行えます。

操作のながれと本書の構成

撮影の基本ステップ　P.17〜33

1 電池を入れ、容量を確認します。P.18〜19

2 レンズを取り付けます。P.20〜21

3 フィルムを入れます。P.22〜23

4 フォーカス機能をセットします。P.24〜25

5 測光モードと露出モードをセットします。P.26〜27

6 カメラを構え、ピントを合わせます。P.28〜29

7 ファインダー内表示を確認し、シャッターをきります。P.30〜31

8 内蔵スピードライトを使ってみましょう。P.32〜33

操作の詳細／電池の取り扱い　P.35～96／P.101

⚠警　告（カメラについて）

分解したり修理・改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。
電池を抜いて、販売店または当社サービス機関に修理を依頼してください。

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電池を取り出すこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。
電池を取り出す際、やけどに十分注意してください。電池を抜いて、販売店または当社サービス機関に修理を依頼してください。

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと

発火したり感電の原因となります。

引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと

プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因となります。

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと

失明や視力障害の原因となります。

車の運転者等にむけてスピードライトを発光しないこと

事故の原因となります。

スピードライトを人の目に近づけて発光しないこと

視力障害の原因となります。
特に乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。

幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

ストラップが首に巻き付かないようにすること
特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと

首に巻き付いて窒息の原因となります。

⚠注　意（カメラについて）

ぬれた手でさわらないこと

感電の原因になることがあります。

製品は、幼児の手の届かない所に置くこと

ケガの原因になることがあります。

使用しないときは、レンズにキャップをつけるか太陽光のあたらない所に保管すること

太陽光が焦点を結び火災の原因になることがあります。

三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと

転倒したりぶつけたりしてケガの原因になることがあります。

⚠警　告（アルカリ乾電池・リチウム電池について）

電池を火に入れたり、加熱しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

電池をショート、分解しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

電池に表示された警告・注意を守ること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

使用説明書に表示された電池を使用すること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

新しい電池と使用した電池、種類やメーカーの異なる電池をまぜて使用しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

電池は幼児の手の届かない所に置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

電池の「＋」と「－」の向きをまちがえないようにすること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

水につけたり、濡らさないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

充電式電池以外は充電しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

使い切った電池はすぐに器具から取り出すこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。
お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄してください。

⚠危　険（ニッケル水素電池・ニカド電池について）

電池を火に入れたり、加熱しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

電池をショート、分解しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

新しい電池と使用した電池、種類やメーカーの異なる電池をまぜて使用しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

電池の「＋」と「－」の向きをまちがえないようにすること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

専用の充電器を使用すること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

ネックレス、ヘアピンなど金属製のものと一緒に持ち運んだり保管したりしないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

⚠警　告（ニッケル水素電池・ニカド電池について）

使用説明書に表示された電池を使用すること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

電池は幼児の手の届かない所に置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

水につけたり、濡らさないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

変色・変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは使用しないこと

液もれ、発熱、破裂、発火の原因となります。

充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合には、充電をやめること

液もれ、発熱の原因となります。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること

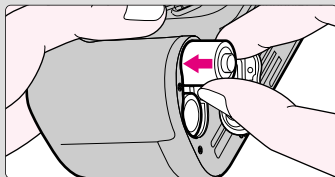
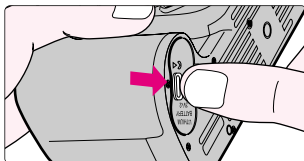
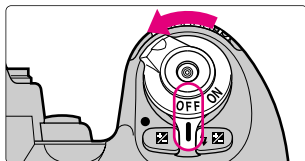
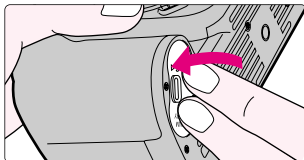
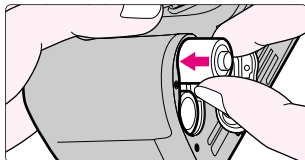
他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。
お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄してください。

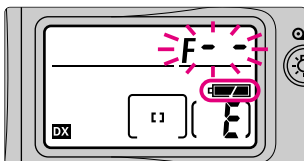
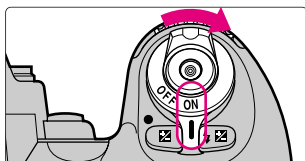
撮影の基本ステップ

ここでは、露出モードをプログラムオートにセットしたもっとも簡単な撮影方法を説明しています。その他の機能は下表の装着レンズ、カメラ各部の設定を前提としています。一般的な撮影は、この方法でほとんど行えます。

装着レンズ	⇨	DタイプAFニッコールレンズ
フィルム感度	⇨	DX
フィルム給送モード	⇨	1コマ巻き上げ（S）
フォーカスモード	⇨	シングルAFサーボ（AF-S）
AFエリアモード	⇨	シングルエリアAF（[ ]）
フォーカスエリア	⇨	中央
測光モード	⇨	3D-10分割マルチパターン測光（[◉]）
露出モード	⇨	マルチプログラムオート（P）
内蔵スピードライト	⇨	先幕シンクロ（⚡）

1 電池を入れ、容量を確認します。

このカメラには、3Vリチウム電池（CR123AまたはDL123Aタイプ）を2本使用します（その他の電源については、P.98をご覧ください）。

1.1 電源スイッチをOFFにし、電池ぶた開閉ノブをスライドさせて、電池ぶたを開けます。

1.2 電池ぶたの ⊕⊖ 表示にしたがってリチウム電池を2本入れ、電池ぶたを確実に閉じます。

- ⊕⊖ を間違えますと、故障の原因となる場合があります。

1.3 電源スイッチをONにして、バッテリーチェック表示 で電池容量を確認します。

（点灯）：電池の容量は充分です。

（点灯）：電池容量はわずかです。予備の電池を準備してください（ファインダー内表示は各操作ボタンから指を離すと消灯します）。

（点滅）：電池を交換してください（シャッターはきれなくなります）。

✓ ここをチェックしましょう！

- □ 電池は幼児の手の届かないところに置き、万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください（安全上のご注意 ☞ P.15、電池の取り扱い ☞ P.101 ）。
- □ 電池を交換する時は電源スイッチをOFFにして、2本とも同じメーカーの新品電池に交換してください。
- □ 海外等へお出かけの際は、予備の電池をお持ちください。
- □ 新品電池での撮影可能本数についてはP.110をご覧ください。

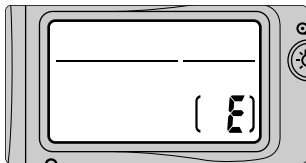
- 電源スイッチをONにして約6秒経過すると、表示パネルからシャッタースピード、絞り値が消灯します（ファインダー内は全ての表示が消灯します）。
- カメラの電池はデート機能の電源も兼ねています。初めて電池を入れたときは、同時に日付と時刻を合わせてください（☞ P.92）。

1.4 シャッターボタンの半押し操作と、半押しタイマーについて

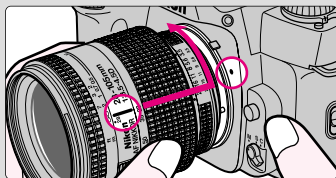
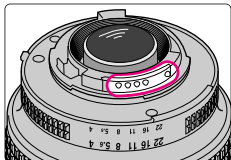
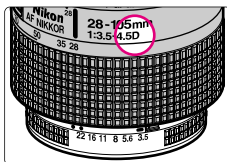
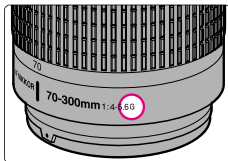
- シャッターボタンを半押しする（軽く押す）と、半押しタイマーが作動して、指を離してから約6秒間、表示パネルとファインダー内の表示が再点灯します。

CSM 15：半押しタイマーの時間を変更できます（☞ P.76）。

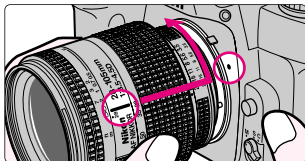
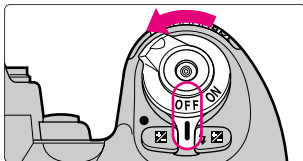
メモ　電源スイッチをOFFにした場合の表示について

電池が入っている状態で電源スイッチをOFFにすると、フィルムカウンターのみが表示されます。

レンズを取り付けます。

2

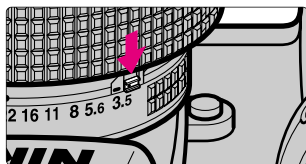
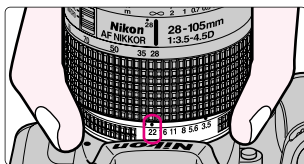
電源スイッチをOFFにし、レンズを取り付けます。

2.1 レンズの種類を確認します。

CPU内蔵ニッコールレンズにはCPU信号接点があります。

① Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズ

② Gタイプニッコールレンズ

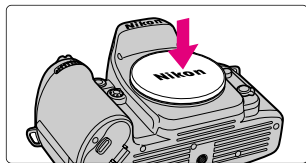
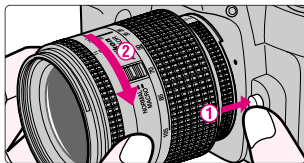
- ①はGタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズで、このレンズには絞りリングがあります（イラストはDタイプニッコールレンズです）。
- ②はGタイプCPU内蔵ニッコールレンズで、このレンズには絞りリングがありません。

2.2 電源スイッチをOFFにし、カメラにレンズを取り付けます。

- カメラとレンズの着脱指標を合わせて、レンズを矢印方向にカチッと音がするまで回します（レンズ取り外しボタンは押さないでください）。
- レンズが装着されていない時、またはCPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着した時は、電源スイッチをONにすると表示パネルとファインダー内表示にF--が点滅して警告し、シャッターがきれません。CPU内蔵ニッコール以外のレンズを使用する場合は、P.36をご覧ください。

✓ ここをチェックしましょう！

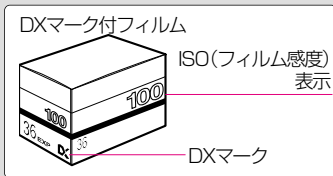
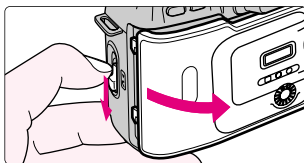
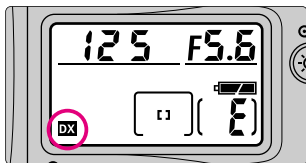
- □ できるだけ、DタイプまたはGタイプAFニッコールをご使用ください。このカメラの機能をフルに利用できます（P.36「このカメラに使用可能なレンズについて」をご覧ください）。
- □ レンズの取り付け、取り外しの際は、レンズが不用意に作動しないよう、カメラの電源スイッチをOFFにしてください。
- □ レンズ装着時は、レンズ取り外しボタンを押さないでください。
- □ レンズの着脱は、直射日光を避けて行ってください。

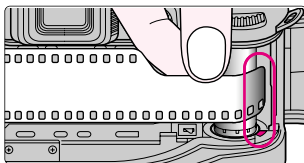
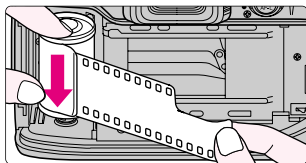
2.3 Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズを使用する場合は、絞りリングを最小絞りにセットして、ロックします。

- Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズの絞りリングが、最小絞り（最も数値の大きい絞り）にセットされていない時は、電源スイッチをONにすると表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。
- Gタイプニッコールレンズの場合、最小絞りにセットする必要はありません。

2.4 カメラからレンズを取り外すには

- レンズ取り外しボタンを押しながら①、レンズを矢印方向に回して外します②。
- カメラからレンズを長時間外しておく時は、付属のボディキャップ（☞ P.3）、または別売りのボディキャップBF-1Aを装着して、カメラの内部を保護してください（旧タイプのボディキャップBF-1は装着できません）。

フィルムを入れます。

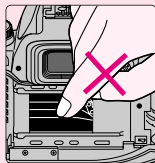
3

電源スイッチをONにして、DXマーク付フィルムを入れるとフィルム感度が自動設定されます（ISO25～5000）。次に裏ぶたを閉じると、自動的に1コマ目まで空送りされます。

3.1 電源スイッチをONにし、フィルム感度が DX にセットされていることを確認して、裏ぶたロック解除レバーをスライドさせて裏ぶたを開けます。

● フィルム感度が DX にセットされていない場合はP.38をご覧ください。

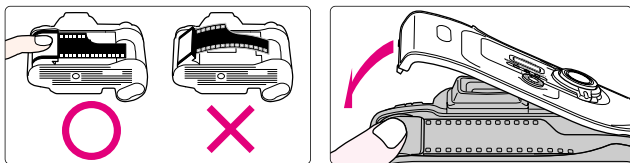
3.2 フィルムパトローネを下側から先に入れて、フィルムの先端をカメラの赤色マークに合わせます。

● フィルムの先端が、赤色マークより奥に入らないようにしてください。

! 注意 フィルムの出し入れの際のご注意

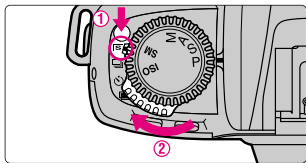
● シャッター幕は非常に薄い幕でできています。フィルムの出し入れの際、指やフィルムの先端がシャッター幕に触れないように十分注意してください。

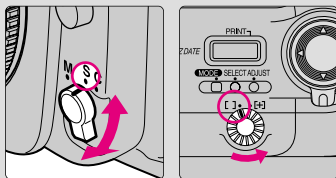
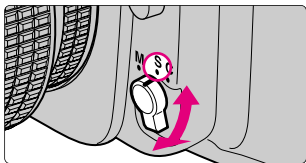
● 初めてご使用になる場合は、シャッター幕を保護するカバーが付いていますので、フィルムを入れる前にこの保護カバーを取り外してください。

✓ ここをチェックしましょう！

□ DXマーク付きフィルム使用時のフィルム感度の変更方法やフィルム給送モードなどの詳細は、P.38／39をご覧ください。
□ シャッター幕は非常に薄い幕でできています。フィルムの出し入れの際、指やフィルムの先端がシャッター幕に触れないように十分ご注意ください。
□ 屋外でフィルムを交換する時は、直射日光を避けてください。

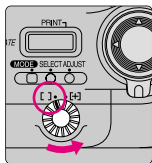
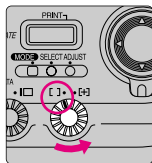
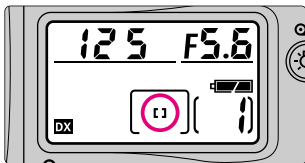
3.3 フィルムが浮き上がらないように注意しながら、裏ぶたをパチンと音がするまで静かに閉じます。

- 裏ぶたを閉じるとフィルムが自動的に1コマ目まで空送りされ、表示パネルのフィルムカウンターに 1 が表示されます。
- 表示パネルとファインダー内表示に Err と E が点滅している場合は、フィルムが正しく装てんされていません。裏ぶたを開けてフィルムを入れ直してください。
- フィルム感度をDX にセットしてDXマークがないフィルムを入れると、表示パネルにはDXとErrが、ファインダー内表示にはErrが点滅して警告し、シャッターがきれません。手動でフィルム感度をセットしてください（☞ P.38）。
- フィルムカウンターは電源スイッチをOFFにしても表示されます。
- フィルムの規定枚数は、フィルム確認窓で確認できます。
- フィルム給送機構の特性上、赤外線フィルムは使用できません。

CSM 8：フィルムの1コマ目までの空送りが、裏ぶたを閉じた後シャッターボタンを押すことにより開始されるように変更できます（☞ P.74）。

3.4 給送モードセレクトダイヤルロックボタンを押しながら①、給送モードセレクトダイヤルを S（1コマ巻き上げ）にセットします②。

4 フォーカス機能をセットします。

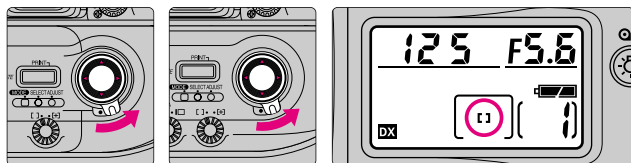
フォーカスモードを S（シングルAFサーボ）、AFエリアモードを [ ]（シングルエリアAF）、フォーカスエリアを中央にセットします。

4.1 フォーカスモードセレクトダイヤルを S（シングルAFサーボ）にセットします。

- フォーカスモードセレクトダイヤルの操作は、カチッと音がするまで確実に行ってください。
- ピントを合わせる時は、シャッターボタンの半押しを続けてください（☞ P.29）。

CSM 11：オートフォーカスでピント合わせる時に、シャッターボタンの半押しではなく、AE／AFロックボタンの操作だけで行えるように変更できます（☞ P.75）。

4.2 AFエリアモードセレクトダイヤルを [ ]（シングルエリアAF）にセットします。

F80D

F80S

- AFエリアモードセレクトダイヤルの操作は、ダイヤルが止まるまで確実に行ってください。

✓ ここをチェックしましょう！

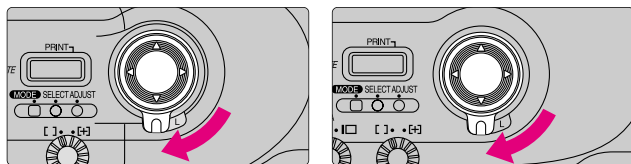
- □フォーカスモードを S（シングルAFサーボ）や C（コンティニュアスAFサーボ）にセットした場合は、レンズの距離リングは手で回さないでください。
- □S（シングルAFサーボ）にセットすると、ピントが合っていない時は、シャッターはきれません。
- □フォーカスモード、AFエリアモード、フォーカスエリアなどフォーカス機能の詳細はP.40～44をご覧ください。
- □オートフォーカスが苦手な被写体についてはP.48をご覧ください。

4.3 フォーカスエリアセレクターロックレバーを矢印の方向にスライドさせてロックを解除し、フォーカスエリアセレクターでフォーカスエリアを中央にセットします。

F80D

F80S

- 半押しタイマーが作動している状態で、フォーカスエリアセレクターを上下左右に押すと、フォーカスエリアが押された方向に移動します（☞ P.44）。
- 選択されているフォーカスエリア表示が表示パネルとファインダー内表示およびファインダースクリーン上に点灯します（☞ P.44）。

CSM 5：選択されたフォーカスエリア表示は、ファインダー内では輝度により自動照明しますが、この照明を禁止したり、輝度に関わらず照明するように変更できます。(☞ P.74)。

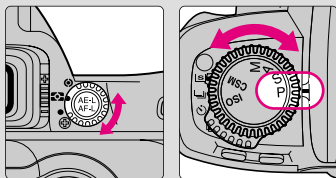
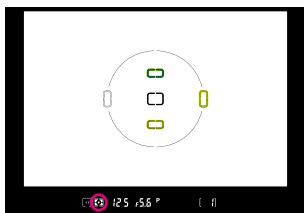
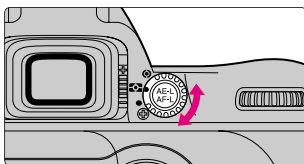
4.4 フォーカスエリアセレクターロックレバーを矢印の方向にスライドさせて、フォーカスエリアセレクターをロックします。

F80D

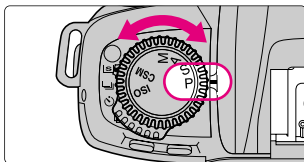
F80S

- フォーカスエリアセレクターロックレバーでロックすると、選択されたフォーカスエリアは固定され、不用意にフォーカスエリアセレクターを押してもフォーカスエリアは移動しません。

測光モードと露出モードをセットします。

5

測光モードを ◙（マルチパターン測光）に、露出モードを P（マルチプログラムオート）にセットします。

5.1 測光モードセレクトダイヤルを ◙（マルチパターン測光）にセットします。

- ファインダー内表示にマルチパターン表示 ◙ が点灯します。
- マルチパターン測光は、撮影画面を10分割して、それぞれの部分を独立して測光した情報に基づいて、最適な露出値を決定します。さらにDタイプまたはGタイプニッコールレンズを装着した場合には、画面内の最大輝度、輝度差情報に加え、カメラから被写体までの距離情報を加味して測光の精度を高めた、3D-10分割マルチパターン測光となります（☞ P.50）。

5.2 露出モードダイヤルを P（マルチプログラムオート）にセットします。

- シャッターボタンを半押しすると、シャッタースピードと絞りが表示パネルとファインダー内表示に点灯します。

✓ここをチェックしましょう！

- □測光モードにはマルチパターン測光、中央部重点測光、スポット測光の3種類があります。各測光モードの詳細についてはP.50をご覧ください。
- □露出モードにはマルチプログラムオート、シャッター優先オート、絞り優先オート、マニュアルの4種類があります。各露出モードの特長を活用すれば、被写体や撮影意図に合わせて効果的な撮影が行えます。各露出モードの特長は下記の表を、さらに特長と撮影方法の詳細は各表示の下に表記された参照ページをご覧ください。

■各露出モードの特長

表示	名称	特長・こんな時に使用すると便利です。
P ☞ P.52	**マルチプログラムオート**	シャッタースピードも絞りもカメラが制御しますので、シャッターチャンスに専念して気軽に撮影したい時などに便利です。また、プログラムシフト（☞ P.53）や露出補正（☞ P.62）により、カメラが決定した露出に撮影者の意図を加味することもできます。
S ☞ P.54	**シャッター優先オート**	シャッタースピードをセットすれば、絞りはカメラが制御します。動きのある被写体を速いシャッタースピードで写し止めたり、遅いシャッタースピードで動きを強調したりすることが可能です。
A ☞ P.56	**絞り優先オート**	絞りをセットすれば、シャッタースピードはカメラが制御します。手前から奥まで鮮明に写す、背景をボカすなどの被写界深度（ピントの合う前後の範囲 ☞ P.90）を考慮した撮影に最適です。
M ☞ P.58	**マニュアル**	シャッタースピードも絞りも自由にセットできます。他の露出モードでは意図した撮影が難しい時などに便利です。また、CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着した場合はこのモードで撮影が行えます（ただしカメラの露出計は使用できません）。

6 カメラを構え、ピントを合わせます。

シャッターボタンの半押しを続けると、カメラがピント合わせを行い、ピントが合うとファインダー内のピント表示 ● が点灯します。

6.1 カメラを正しく構えます。

- わきを締め、ひじは軽く体につけます。
- 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。
- 右手で、カメラのグリップを包みこむように持ち、左手はレンズを支えます。

メモ 手ブレとシャッタースピードについて

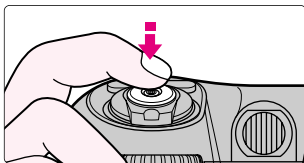
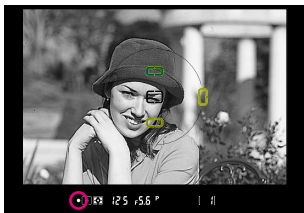
撮影に手ブレは禁物です。撮影時の目安として、シャッタースピードは1／60秒より高速になるように心がけてください。1／60秒より低速になる場合は、スピードライト（☞ P.32／80）または三脚のご使用をおすすめします。

注意 構図を決める際のご注意

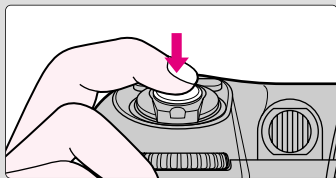
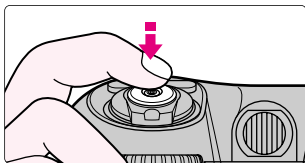
このカメラのファインダーで確認できる範囲（ファインダー視野率）は、実際に撮影される画面の約92%です。したがって、ファインダーをのぞいて見た視野よりも、実際に撮影される画面は多少広くなります。ただし、ネガフィルムをサービスサイズなどでプリントした場合には、実際に撮影した画面よりも画面の周囲が数ミリカットされる傾向がありますので、ご注意ください。

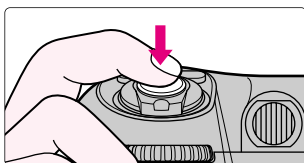
✓ ここをチェックしましょう！

- ☐ ファインダー像がはっきりしない時は、視度調節（☞ P.68）を行ってください。ファインダー像が確認しやすくなります。
- ☐ 主要被写体（ピントを合わせたい人物やものなど）がフォーカスエリアから外れる構図で撮影する場合は、フォーカスエリアセレクターでフォーカスエリアを選択し直す（☞ P.44）か、「フォーカスロック撮影」（☞ P.46）を行ってください。
- ☐ 日付と時刻（☞ P.92）、撮影データ（F80Sのみ ☞ P.96）の写し込みが行えます。

6.2 構図を決め、シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

- ピントを合わせたいものにフォーカスエリアを重ねてシャッターボタンの半押しを続けると、カメラが自動的にピント合わせを行い、ファインダー内表示に次の表示が点灯または点滅します。
  - ●（点灯）：被写体にピントが合っています。
  - ●（点滅）：オートフォーカスでピント合わせができません。
- 被写体が暗い場合は、AF補助光（☞ P.45）を自動的に照射してピント合わせを行います。
- ピントを合わせたいものがフォーカスエリアから外れる構図で撮影する場合は、フォーカスエリアセレクターでフォーカスエリアを選択し直す（☞ P.44）か、「フォーカスロック撮影」（☞ P.46）を行ってください。
- オートフォーカスが苦手な被写体については、P.48をご覧ください。

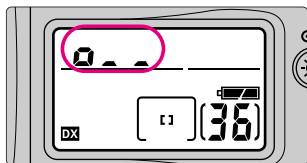
7 ファインダー内表示を確認し、シャッターをきります。

ピント表示 ● を確認し、シャッターボタンをゆっくりと深く押してシャッターをきってください。はじめから被写体が動いている時は予測駆動フォーカス（☞ P.90）が作動し、被写体の動きに合わせてカメラが自動的にピントを追い続けます。

7.1 シャッターボタンを半押しし、ファインダー内表示を確認します（シャッタースピードと絞りは1／2段ステップで表示されます）。

- 被写体が暗い場合やシャッタースピードが1／60秒より低速になる場合は、手ブレの恐れがあるので内蔵スピードライトをご使用ください（☞ P.32）。
- 表示パネルやファインダー内表示に警告が行われた場合、P.102を参考に対応してください。

7.2 ピント表示 ● の点灯を確認して、静かにシャッターボタンを押し込みます。

- シャッターをきるとフィルムは自動的に1コマ巻き上げられ、次の撮影の準備が完了します。

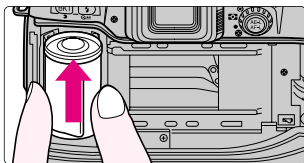
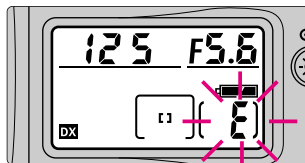
✓ ここをチェックしましょう！

- □ ファインダー内表示でピントと露出の確認ができます。警告が行われた場合はP.102を参考に対応してください。
- □ フィルムは最後のコマが撮影されると、自動的に巻き戻されます。
- □ フィルムの途中巻き戻しについては、P.38をご覧ください。
- □ セルフタイマー撮影については、P.70をご覧ください。
- □ 表示パネルおよびファインダー内表示に E が点滅する前に裏ぶたを開けてしまうと、フィルムカウンターと o- - が点滅して警告します。その場合はP.104を参考に対応してください。

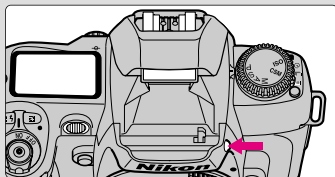
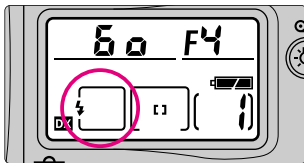
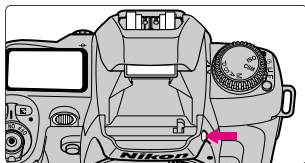
7.3 最後のコマが撮影されると、フィルムは自動的に巻き戻されます。

- フィルム巻き戻し中は、表示パネルおよびファインダー内表示にフィルム巻き戻し表示 が o- - → o- → o の順に点灯し、フィルムコマ数がカウントダウン表示されます。
- 規定枚数を超えて撮影したコマは現像処理上カットされることがあります。

CSM 1：撮影フィルムが終了したときに、フィルム巻き戻しの自動開始が行われないように変更できます（☞ P.73）。

CSM 13：フィルム巻き戻しが開始すると高速巻き戻しが行われますが、巻き戻す速さより静粛性を重視したサイレント巻き戻しモードに変更できます（☞ P.76）。

7.4 巻き戻しの完了を確認して、フィルムを取り出します。

- 表示パネルおよびファインダー内表示に E が点滅（半押しタイマーがOFFになると点灯）すると巻き戻しは完了です。必ず E が点滅するのを確認してから直射日光を避けて裏ぶたを開け、パトローネを斜め上に持ち上げながらフィルムを取り出してください。

8 内蔵スピードライトを使ってみましょう。

被写体が暗い場合やシャッタースピードが1／60秒より低速になる場合は、手ブレの恐れがあるので内蔵スピードライトを使ってみましょう。また逆光などの場合にも効果的です。

8.1 スピードライトロック解除ボタンを押して、スピードライトを上げると充電が開始されます。

- 先幕シンクロモードにセットされていない場合は、P.82をご覧ください。
- スピードライトの充電が完了するとファインダー内にレディライト ⚡ が点灯します（半押しタイマー作動中）。
- スピードライトを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます（使用しないときは電池の消耗を防ぐため、常に収納状態にしてください）。

メモ　内蔵スピードライトが効果的な場合

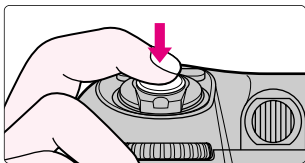
内蔵スピードライトは次のような場合に効果的です。
・シャッタースピードが1／60秒より低速になる場合。
・夜間や室内での撮影のように被写体が暗い場合。
・被写体が逆光になっている場合や、被写体となる人物の顔などにもうすこし光が欲しい場合。

注意　内蔵スピードライトの連続使用について

内蔵スピードライトを連続的に使用すると、スピードライトを保護するために一時的に発光が制限されます。少し時間をおくと発光可能になります。

✓ ここをチェックしましょう！

- □内蔵スピードライトはガイドナンバー12（ISO100・m）で28mmレンズの画角をカバーします。
- □DタイプまたはGタイプニッコールレンズを使用すれば、3D-マルチBL調光が行われますので、簡単にスピードライト撮影が楽しめます（☞ P.80）。
- □スピードライト使用時は、レンズフードを取り外して（または収納して）ください。また、一部のレンズではケラレが発生します（☞ P.86）。

8.2 ファインダー内にレディライト ⚡ が点灯していることを確認し、構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

- レディライト⚡が点灯しないとシャッターはきれません。
- シャッターをきった後レディライト ⚡ が約3秒間点滅した場合は、フル発光したことを意味します。この場合は露出不足の恐れがありますので、調光範囲（光の届く範囲 ☞ P.85）を再確認して、撮影し直してください。
- ここで説明しているのは「先幕シンクロモード（通常のスピードライト撮影はこのモードとなります）」による撮影方法ですが、他にも人物の目が赤く写るのを軽減させる「赤目軽減モード」や、背景の夜景や夕景の雰囲気を生かした「スローシンクロモード」などによる撮影方法もあります。詳細についてはP.82をご覧ください。
- 被写体が暗い場合は、自動的にAF補助光を照射してピントを合わせを行います。詳細についてはP.45をご覧ください。

メモ　3D-マルチBL調光について

このカメラにDタイプまたはGタイプニッコールレンズを装着してスピードライト撮影を行った場合、測光で得た明るさの情報とスピードライトが本発光の直前に行うモニター発光による情報、さらに被写体までの距離情報を加味し、主要被写体と背景の露出を考慮してスピードライトの発光量をバランスよくコントロールする3D-マルチBL調光を行います（☞ P.80）。

C O L U M N

コラム：測光・露出

測光と露出は写真撮影の重要なポイント。それぞれの特徴を知っておくことによって、表現の幅を広げることができます。

測光

撮影しようとする被写体（写したい対象物）の明るさを測ることを**測光**といいます。測光は露出（露光）を決める時の重要な情報源で、これによりフィルムに最適な光（適正露出）を与えるシャッタースピードと絞りの組み合わせが決定されます。
通常、被写体が含まれる撮影画面内の明るさは必ずしも一様ではありません。そのため、F80D／F80Sでは、画面を10分割し、それぞれの部分を独立して測光した情報を利用して適正露出を決める「**マルチパターン測光**」と、撮影画面内中央部の明るさに重点を置いて適正露出を決める「**中央部重点測光**」、5つのフォーカスエリアのうち選択した1つに重なる狭い測光エリアで測光する「**スポット測光**」の3つの測光モードを備えています。
なお、DタイプまたはGタイプニッコールを装着してマルチパターン測光を選択するとさらに距離情報を加味した「**3D-10分割マルチパターン測光**」となり、より高い測光精度を発揮します。（☞ P.50）

露出（露光）

被写体（写したい対象物）をカメラのレンズを通してフィルムに感光させて記録することを**露出**を与える（**露光**）といいます。その時、被写体の明るさとフィルムの感度に合わせ、シャッタースピードと絞りを調節して、フィルムに最適な光（適正露出）を与えることが大切です。
F80D／F80Sでは適正露出を得るため、「**マルチプログラムオート**」（☞ P.52）、「**シャッター優先オート**」（☞ P.54）、「**絞り優先オート**」（☞ P.56）、「**マニュアル**」（☞ P.58）の4つの露出モードを備えています。
また、各オート露出時にカメラが自動的に制御する露出では、撮影画面内に極端に反射率の高いものが存在したり、極端に反射率の低いものが存在したりするシーンでは、適正な露出を得られない場合があります。この場合、撮影者が露出の補正を行う必要があり、F80D／F80Sでは「**AEロック機能**」（☞ P.60）、「**露出補正機能**」（☞ P.62）、「**オートブラケティング（自動段階露出）機能**」（☞ P.63）の3つの機能で露出の補正を行うことができます。さらにこの機能により意図的に露出に変化を与えて、撮影者の作画意図に応じた多彩な写真表現も可能です。

C O L U M N

操作の詳細

このカメラの各機能をレンズ、フィルム、
ピント、露出、その他の機能の順に
詳細に説明しています。

このカメラに使用可能なレンズについて

■このカメラには、CPU内蔵ニッコールレンズ（DXおよびIXニッコールを除く）をご使用ください。特に、DタイプまたはGタイプAFニッコールレンズを装着すれば、全ての機能が使用できます（☞ P.20）。

メモ　GタイプおよびGタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズについて

- Gタイプニッコールレンズは、レンズ本体から絞りリングを無くしたレンズです。このため、このカメラに使用する場合、従来の絞りリングがあるレンズのように、絞りリングを最小絞り（最も数値の大きい絞り）にセットする必要がありません。
- Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズには、絞りリングがあります。このカメラに使用する場合は、絞りリングを最小絞りにセットしてロックします。絞りリングが最小絞りにセットされていない時は、電源スイッチをONにすると表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。

CPU内蔵ニッコール以外のレンズ装着時には

露出モードを**M**（マニュアル）にセットした場合のみ、CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着して撮影できます（**M**以外の露出モードでは、シャッターはきれません）。ただし、カメラの露出計の使用や、コマンドダイヤルによる絞りのセットはできません。表示パネルとファインダー内表示の絞り表示は、F--となりますので、絞りのセットと確認は、レンズの絞りリングで行ってください。

! 注意　使用できないCPU内蔵ニッコール以外のレンズ等について

下記のCPU内蔵ニッコール以外のレンズ等は使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

・AFテレコンバーターTC-16AS
・Ai改造をしてないニッコールレンズ（Ai方式以前の連動爪を使用するタイプ）
・フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm f/4.5　600mm f/5.6　800mm f/8　1200mm f/11）
・フィッシュアイ（6mm f/5.6　7.5mm f/5.6　8mm f/8　OP10mm f/5.6）
・旧21mm f/4
・K1リング、K2リング、オート接写リングPK-1、PK-11、BR-2リング、BR-4リング
・ED180～600mm f/8（製品No.174041～174180）
・ED360～1200mm f/11（製品No.174031～174127）
・200～600mm f/9.5（製品No.280001～300490）
・F3AF用（80mm f/2.8　200mm f/3.5　テレコンバーターTC-16S）
・PC28mm f/4（No.180900以前の製品）
・PC35mm f/2.8（製品No.851001～906200）
・旧PC35mm f/3.5
・旧レフレックス1000mm f/6.3
・レフレックス1000mm f/11（製品No.142361～143000）
・レフレックス2000mm f/11（製品No.200111～200310）

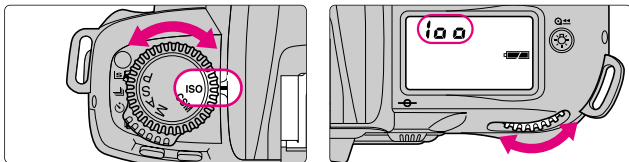
■CPU内蔵ニッコールの種類と使用できるその他のレンズ等について

	モード／レンズ	フォーカスモード			露出モード		測光モード		
		オートフォーカス	フォーカスエイド	マニュアル	**M**以外	**M**	マルチパターン測光 3D-10分割	マルチパターン測光 10分割	中央部重点測光 スポット測光 ※1
CPU内蔵ニッコール※2	Dタイプ AFレンズ ※3 GタイプAFレンズ AF-Sレンズ AF-Iレンズ	○	○	○	○	○	○	—	○
	PCマイクロ 85mm f/2.8D ※4	—	○※5	○	—	○	○	—	○
	AF-S、AF-I テレコンバーター ※6	○※7	○※7	○	○	○	○	—	○
	DタイプおよびGタイプ以外のAFニッコール（F3AF用を除く）	○※8	○※8	○	○	○	—	○	○
	Ai-Pニッコール	—	○※9	○	○	○	—	○	○
CPU内蔵ニッコール以外のレンズ等※10	Ai-S、Ai、シリーズE レンズ、改造Aiニッコール	—	○※9	○	—	△※11	—	—	—
	メディカル120mm f/4	—	○	○	—	△※12	—	—	—
	レフレックスレンズ	—	—	○	—	△※11	—	—	—
	PCニッコール	—	○※5	○	—	△※11	—	—	—
	Ai-S、Ai テレコンバーター	—	○※7	○	—	△※11	—	—	—
	ベローズPB-6 ※13	—	○※7	○	—	△※11	—	—	—
	オート接写リング （PK-11A.12.13.PN-11）	—	○※7	○	—	△※11	—	—	—

※1：CPU内蔵ニッコールレンズ装着時はフォーカスエリアの選択によりスポット測光エリアの移動が可能（☞P.51）。
※2：DXおよびIXニッコールは装着できません。
※3：このカメラはVRニッコールレンズのVR（手ブレ補正）機能に対応しています。
※4：カメラの測光モード、および調光制御機能は、あおり操作（シフト、ティルトとも）を行っている時、または開放絞り以外に絞りがセットされている時には、正しく機能しません。
※5：あおり操作を行っていない場合のみ可能。
※6：AF-Sレンズ、AF-Iレンズ専用。ただしAF-S ED17〜35mm f/2.8D、AF-S ED24〜85mm f/3.5〜4.5G、AF-S VR ED24〜120mm f/3.5〜5.6G、AF-S ED28〜70mm f/2.8Dは使用できません。また、AF-S TC-20E IIおよびAF-I TC-20Eは、AF-S VR ED200〜400mm f/4G、AF-S ED300mm f/4D、AF-S ED500mm f/4D II、AF-S ED500mm f/4D、AF-I ED500mm f/4D、AF-S ED600mm f/4D II、AF-S ED600mm f/4D、AF-I ED600mm f/4Dとの組み合わせではAF撮影はできません。
※7：合成絞りが f/5.6以上明るい場合のみ使用可能。
※8：AF 80〜200mm f/2.8S、AF 35〜70mm f/2.8S、AF 28〜85mm f/3.5〜4.5S（New）、AF 28〜85mm f/3.5〜4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスの合焦表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。
※9：開放絞りが f/5.6以上明るい場合のみ使用可能。
※10：一部装着不可能なレンズ（☞P.36）があります。
※11：露出モードはマニュアル（**M**）で使用できますが、露出計は使用できません。
※12：露出モードはマニュアル（**M**）でシャッタースピードは1/60秒以下で使用できますが、露出計は使用できません。
※13：縦位置にして装着してください（装着後、横位置に戻すことは可能です）。

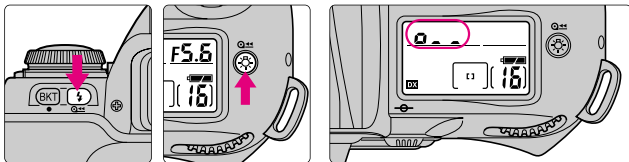
●メディカルニッコール200mmf/5.6はAS-15を併用しないと発光しません。
●複写装置PF-4はカメラアダプターPA-4を併用すると装着できます。

■フィルム感度のセットと確認方法

露出モード（フィルム感度）ダイヤルをISOにセットして、メインコマンドダイヤルで使用するフィルムのISO感度をセットします。

- コマンドダイヤルの回転でフィルム感度を DX またはISO6～6400の範囲（1/3段ステップ）にセットすることができます。ただし、フィルム交換を行うと自動的に DX にセットされます。
- DXマーク付フィルムの場合は、DX にセットしてフィルムを装てんするとISO25～5000の範囲でフィルム感度は自動設定されます。また、DXマーク付フィルムを装てんして DX 以外の感度にセットすると、その感度が優先されますので、フィルムの増感・減感を行う撮影に便利です。
- DXマークがないフィルムの場合は、ISO6～6400の範囲でセットできます。
- セットされているフィルム感度の確認は、露出モード（フィルム感度）ダイヤルをISOにセットするだけで行えます。
- 露出モード（フィルム感度）ダイヤルをISOにセットしたままの状態では、シャッターはきれません。希望する露出モード（P、S、A、M）にセットして撮影してください。

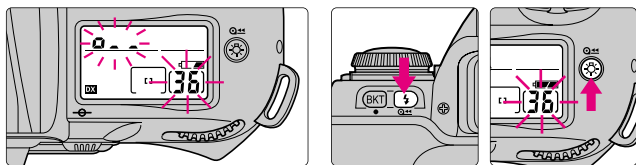
CSM 2：フィルム交換を行っても自動的に DX にセットされず、撮影者自身がセットしたフィルム感度がそのまま保持されるように変更できます（☞ P.73）。

■フィルムの途中巻き戻しについて（撮影途中でフィルムを巻き戻す場合）

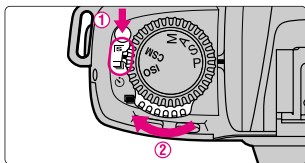
2つのフィルム巻き戻しボタン を約1秒間同時に押します。

- フィルム巻き戻し中は、表示パネルとファインダー内表示にフィルム巻き戻し表示 ☐-- → ☐- → ☐ の順に点灯し、フィルムコマ数がカウントダウン表示されます。
- E が点滅（半押しタイマーが作動していない状態では点灯）すると巻き戻しは完了です。裏ぶたを開けてフィルムを取り出してください。 E が点滅する前に裏ぶたを開けてし

まうと、表示パネルやファインダー内表示にフィルムカウンターと ◘-- が点滅して警告します。その場合はP.104を参考に対応してください。

CSM 13：フィルムの巻き戻しは通常、高速巻き戻しで行われますが、巻き戻す速さより静粛性を重視したサイレント巻き戻しモードに変更できます（☞ P.76）。

■フィルムの巻き戻しが行われない場合

- 電池容量が極端に低下している場合や低温時には、表示パネルにフィルム巻き戻し表示 ◘-- とフィルムカウンターが点滅し、フィルムの巻き戻しが行われなかったり、巻き戻し途中でモーターが停止したりすることがあります。このような時は、いったん電源スイッチをOFFにして電池を交換した後、電源スイッチをONにして、再度巻き戻し操作を行ってください。

■フィルム給送モードについて

給送モードセレクトダイヤルロックボタンを押しながら①、給送モードセレクトダイヤルをセットします②。

●フィルム給送モードの種類と特徴は次のとおりです。

S：1コマ巻き上げ

シャッターボタンを押すごとに、フィルムが1コマずつ巻き上げられます。

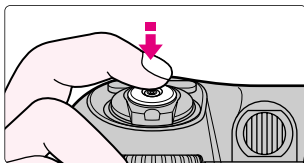
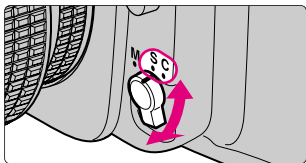
▭：連続巻き上げ

シャッターボタンを押し続けると、フィルムが最高約2.5コマ／秒で連続して巻き上げられます。連続撮影に便利です。

巻き上げ速度は、フォーカスモードM、露出モードM、シャッタースピード1／125秒以上、絞り開放以外、常温20℃、新品電池使用時の1～36枚撮影時の平均値です。

- 給送モードセレクトダイヤルを ▣ にセットすると多重露出撮影（☞ P.65）が、ⓢ にセットするとセルフタイマー撮影（☞ P.70）が行えます。

フィルム

■フォーカスモードセレクトダイヤルについて

● フォーカスモードセレクトダイヤルを S（シングルAFサーボ）、または C（コンティニュアスAFサーボ）にセットし、シャッターボタンの半押しを続けると、フォーカスエリア内（☞ P.44）の被写体に自動的にピントを合わせます。

S：シングルAFサーボ（AF-S・フォーカス優先モード）

ファインダー内表示のピント表示 ● が点灯している時のみシャッターがきれるフォーカス優先モードです。ピント表示 ● が点灯した状態でシャッターボタンの半押しを続けると、ピントはそこで固定（フォーカスロック ☞ P.46）されます。
ただし、初めから動いている被写体には予測駆動フォーカス（☞ P.90）が作動して被写体の動きに応じてピントを追い続け、ピントが合っているとカメラが判断すればシャッターはきれます。シャッターをきる前に被写体が静止した時は、ピント表示 ● が点灯して、ピントはそこでフォーカスロックされます。

C：コンティニュアスAFサーボ（AF-C・レリーズ優先モード）

ファインダー内表示のピント表示 ● の点灯、消灯にかかわらず、いつでもシャッターをきることができるレリーズ優先のモードです。いったんピント表示 ● が点灯してもフォーカスロックは行われず、シャッターをきるまでピントを合わせ続けます。
また、シャッターボタンの半押しを続けると、動いている被写体には予測駆動フォーカス（☞ P.90）が作動して、被写体の動きに応じてピントを追い続けます。

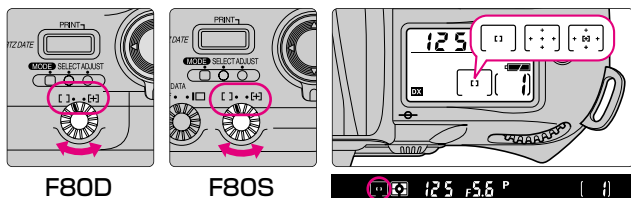
CSM 11：シャッターボタンの半押しではなく、AE／AFロックボタンの操作でオートフォーカスが作動するように変更できます（☞ P.75）。

AFエリアモードについて

■オートフォーカスでAFエリアモードセレクトダイヤルを切り換えると、選択したフォーカスエリア（☞ P.44）のみでピント合わせを行うシングルエリアAFモード、または他の4つのフォーカスフレームも活用してピント合わせを行うダイナミックAFモードのいずれかを選ぶことができます。

AFエリアモードセレクトダイヤルで、AFエリアモードをセットします。

F80D

F80S

● AFエリアモードセレクトダイヤルをシングルエリアAFモードに切り換えると、表示パネルとファインダー内表示にシングルエリアAFモード表示が、またダイナミックAFモードに切り換えると、ダイナミックAFモード表示 が点灯します（☞ P.42）。

[ ]：シングルエリアAFモード：

5つのフォーカスフレームの中から、撮影者自身が選択した1つのフォーカスエリアだけでピント合わせを行うモードです。このモードは、動きの少ない被写体に対して選択した1つのフォーカスエリアだけで正確にピント合わせを行いたい場合などに便利です。

[+]：ダイナミックAFモード： ／ （至近優先ダイナミックAF時）

1つのフォーカスエリアのみでピントを合わせるシングルエリアAFモードに対し、ダイナミックAFモードでは、複数のフォーカスフレームを使用してピント合わせを行います。

撮影者自身が選択した1つのフォーカスエリアからピントを合わせたい被写体が一時的に外れてしまった場合でも、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピント合わせを行うことが可能です（選択されたファインダー内表示および表示パネルのフォーカスエリア表示は変化しません）。

このモードは動いている被写体（特に不規則な動きをする被写体）を追い続ける時など、被写体をフォーカスエリアに正確に捉え続けることが困難な場合に便利です。さらに、ダイナミックAFモードでは次ページの「**至近優先ダイナミックAF**」も使用可能です。

● ダイナミックAFモード時にフォーカスモードがシングルAFサーボ（AF-S）にセットされている場合、初期設定では、自動的に**至近優先ダイナミックAF**となります。

フォーカス

AFエリアモードについて—つづき—

■至近優先ダイナミックAF について

- 至近優先ダイナミックAFとは、AFエリアモードがダイナミックAFモードの時に使用可能な機能で、5つのフォーカスフレームのうち、いちばん手前にある被写体に重なっているフォーカスフレームを使用して、自動的にピント合わせを行う方法です。5つのフォーカスフレームのいずれかにピントが合いますので、ピントの外れた写真を避けることができます。
- 至近優先ダイナミックAF時は、表示パネル、ファインダー内表示ともにフォーカスエリアは表示されません。また、任意のフォーカスフレームを選択することはできません。
- 望遠レンズ使用時および被写体の輝度が低い時には、至近のフォーカスエリアが選択されない場合があります。その際にはシングルエリアAFモードのご使用をおすすめします。

■オートフォーカス機能の一覧表

フォーカスモードとAFエリアモードの組み合わせにより、次のようなピント合わせが行われます。

	フォーカスモード	AFエリアモード	至近優先ダイナミックAF	表示パネル	ファインダー内表示	フォーカスフレームの点灯と消灯	フォーカスエリアの選択
I	AF-S	シングルエリアAF	——			点灯	手動
II	AF-S	ダイナミックAF	する（初期値）			消灯	自動
III	AF-S	ダイナミックAF	しない（CSM 9で解除）			点灯	手動
IV	AF-C	シングルエリアAF	——			点灯	手動
V	AF-C	ダイナミックAF	しない（初期値）			点灯	手動
VI	AF-C	ダイナミックAF	する（CSM 10で設定）			消灯	自動

CSM 9／10：至近優先ダイナミックAFはフォーカスモードがシングルAFサーボ（AF-S）でも、コンティニュアスAFサーボ（AF-C）でも使用できます。
AFエリアモードを「ダイナミックAFモード」にセットした時、フォーカスモードとの組み合わせにより、下記のようになります。

・AF-Sの場合：初期設定で至近優先ダイナミックAFとなります。
CSM 9で、至近優先ダイナミックAFを解除できます（☞ P.75）。

・AF-Cの場合：初期設定ではダイナミックAFとなります。
CSM 10で、至近優先ダイナミックAFにセットできます（☞ P.75）。

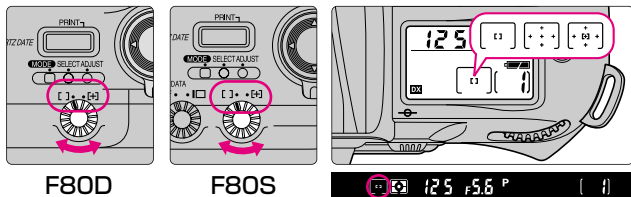
ピント合わせの動作	次のような被写体に便利です。
撮影者が選択したフォーカスエリアだけを使用してピントを合わせます。 ピントが合うとシャッターボタンを半押ししている間は、フォーカスロックされます。	静止被写体を撮影する場合など、一般的な撮影に便利です。
5つのフォーカスエリアのうち、自動的にいちばん手前にある被写体に重なっているフォーカスエリアを使用してピントを合わせます。 ピントが合うとフォーカスロックされますが、ピントが合う前に使用しているフォーカスエリアから被写体が外れると、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを合わせます。	スナップ写真などピント合わせはカメラまかせにして気軽に撮影する場合に便利です。
撮影者が選択したフォーカスエリアを使用してピントを合わせます。 ピントが合うとシャッターボタンを半押ししている間は、フォーカスロックされます。 ただし、ピントが合う前に選択したフォーカスエリアから被写体が外れると、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを合わせます。	静止被写体を撮影する場合など、一般的な撮影に便利です。
撮影者が選択したフォーカスエリアだけを使用してピントを合わせます。 ピントが合ってもフォーカスロックされず、シャッターをきるまでピントを合わせ続けます。	モータースポーツや陸上競技など、前後方向に直線的に動く被写体を1つのフォーカスエリアで捕らえ続ける場合に便利です。
撮影者が選択したフォーカスエリアを使用してピントを合わせます。ピントが合ってもフォーカスロックされません。 選択したフォーカスエリアから被写体が外れると、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを合わせます。	サッカー競技など、複雑に動く被写体を正確に1つのフォーカスエリアに捕らえ続けられない場合に便利です。
5つのフォーカスエリアのうち、自動的にいちばん手前にある被写体に重なっているフォーカスエリアを使用してピントを合わせます。 ピントが合ってもフォーカスロックされません。 使用しているフォーカスエリアから被写体が外れると、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを合わせます。	動きのある被写体を、ピント合わせはカメラまかせにして気軽に撮影する場合に便利です。

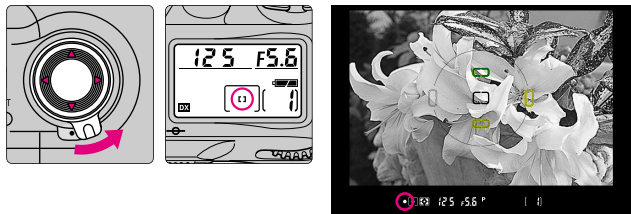
フォーカスエリアについて

■このカメラには、撮影画面内の広い範囲をカバーする5つのフォーカスフレームがあります。被写体の位置や構図に合わせてフォーカスエリアの位置を選択できますので、被写体の状況によっては撮影したい構図のままピント合わせが行え、フォーカスロック（☞ P.46）の手間を省くことができます。

1 AFエリアモードをシングルエリアAFモード [ ] またはダイナミックAFモード [+] にセットします。

F80D

F80S

● 至近優先ダイナミックAF時（[⁝] が点灯☞ P.42）は、フォーカスエリアを任意に選択することはできません。

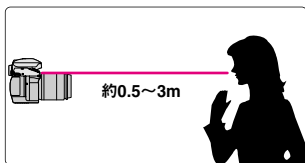
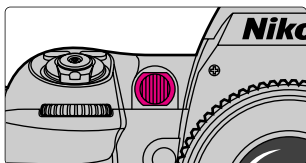
2 ロックレバーをスライドさせてロックを解除し、フォーカスエリアセレクターでフォーカスエリアを選択します。

● シャッターボタンを半押しし、フォーカスエリアセレクターを上下左右に押して希望するフォーカスエリアを選択します。選択されたフォーカスエリアはファインダー内に点灯し、被写体が暗い場合は瞬間的に赤色に自動照明（**バリブライト・フォーカスエリア ☞ P.4**）されます。また、表示パネルのフォーカスエリア表示も点灯します。

● フォーカスエリアを選択した後、フォーカスエリアセレクターロックレバーをスライドさせてロックすると、フォーカスエリアを選択した位置に固定することができます。

CSM 5：選択されたフォーカスエリア表示は、自動的に照明しますが、この照明を禁止したり、被写体の明るさに関係なく照明したりするように変更できます（☞ P.74)。

CSM 6：フォーカスエリアセレクターの押す位置を変えることなく反対側のフォーカスエリアの選択が可能になります（☞ P.74)。

AF補助光について

■このカメラは、AF補助光ランプを搭載しています。被写体が暗い場合でも、シャッターボタンを半押しすると自動的にAF補助光を照射し、被写体を照らしてオートフォーカスでのピント合わせが可能となります。

- 以下の条件を満たしている時に自動的に照射を行います。
  フォーカスモードがAF-Sで、AFニッコールレンズを装着し、被写体が暗く、フォーカスエリアが中央に選択された状態かまたは至近優先ダイナミックAF時。
- 使用可能なAFニッコールレンズの焦点距離は24～200mm、AF補助光が届く距離範囲の目安は約0.5～3mです。

CSM 18：**AF補助光の照射を禁止することができます**（☞ P.77）。

! 注意　AF補助光の連続使用について

AF補助光を連続的に使用すると、照射ランプを保護するため一時的に照射が制限されます。少し時間をおくと照射可能になります。また、短時間に何回も使用すると、AF補助光の窓が熱くなることがありますので、ご注意ください。

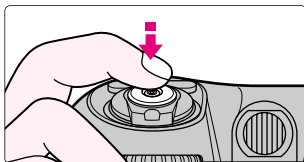
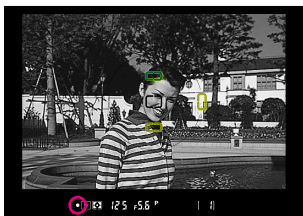
メモ　別売りスピードライトとアクティブ補助光について

別売りスピードライトSB-800・80DX・50DX・28/28DX・27・26・25・24を使用して、撮影した場合、アクティブ補助光の発光条件が満たされると、別売りスピードライト側のアクティブ補助光が自動的に照射を行います。その他の別売りスピードライトでは、カメラ側のAF補助光が自動的に照射を行います。

- 下記のレンズではケラレが発生し、撮影距離1m以内では内蔵AF補助光を使用してのオートフォーカス撮影は行えません。
  - ・AF マイクロ ED200mm f/4
  - ・AF-S ED17～35mm f/2.8
  - ・AF ED18～35mm f/3.5～4.5
  - ・AF 20～35mm f/2.8
  - ・AF 24～85mm f/2.8～4
  - ・AF 24～120mm f/3.5～5.6
  - ・AF-S ED28～70mm f/2.8
  - ・AF マイクロ ED70～180mm f/4.5～5.6
- AF-S ED80～200mm f/2.8、AF ED80～200mm f/2.8、AF VR ED80～400mm f/4.5～5.6は内蔵AF補助光を使用してのオートフォーカス撮影は行えません。

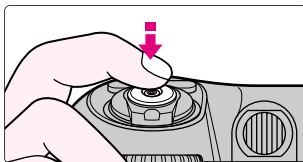
フォーカスロック撮影

■オートフォーカスで主要被写体（ピントを合わせたい人物やものなど）が5つのフォーカスフレームのいずれからも外れる構図の時に使用します。また、「オートフォーカスが苦手な被写体」（☞ P.48）にも有効です。操作手順は シングルAFサーボ（AF-S）とコンティニュアスAFサーボ（AF-C）で異なります。

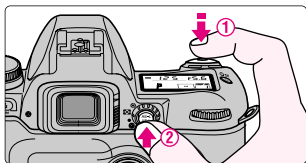
1 ピントを合わせたいものにフォーカスエリアを重ねて、シャッターボタンを半押しします。

●ピントが合うとピント表示 ● が点灯します。

2 ピント表示 ● が点灯したら、フォーカスロックを行います。

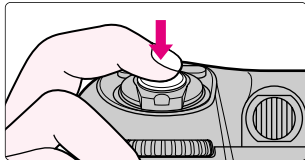
[シングルAFサーボ（AF-S）の場合]

シャッターボタンを半押ししている間、ピントはそのまま固定（フォーカスロック）されます。

●AE／AFロックボタン AE-L AF-L を押してフォーカスロックを行うこともできます（コンティニュアスAFサーボの場合を参照）。

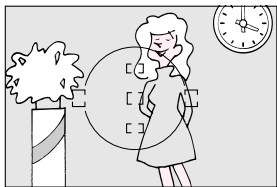
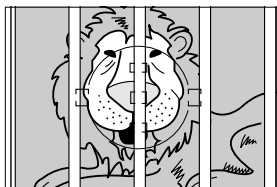
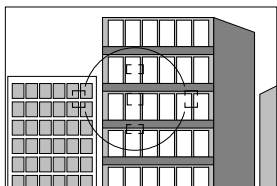
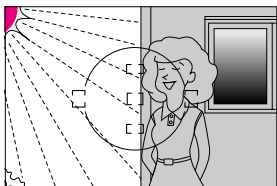
[コンティニュアスAFサーボ（AF-C）の場合]

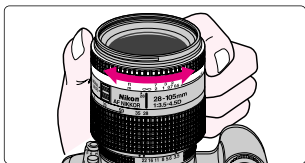
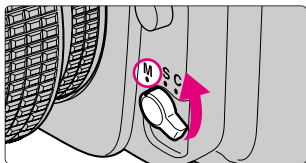
シャッターボタンを半押ししたまま①、AE／AFロックボタン AE-L AF-L を押すと②、ピントがそのまま固定（フォーカスロック）されます。

- シャッターボタンから指を離しても、AE／AFロックボタン AE-L AF-L を押している間はフォーカスロックされます。また、AEロック（☞ P.60）も同時に行われます。

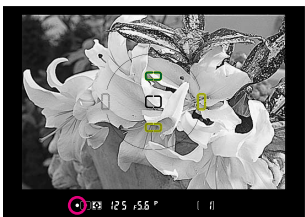
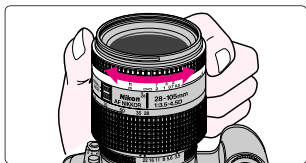
CSM 11：AE／AFロックボタン AE-L AF-L を押した時に、AFロックだけ行われるように変更できます（☞ P.75）。

3 フォーカスロックを行ったまま、構図を決めて撮影します。

- フォーカスロック後は、主要被写体との撮影距離を変えないでください。
- シャッターをきった後も、シャッターボタンの半押しを続けている間、または AE／AFロックボタン AE-L AF-L を押し続けている間はピントが固定され、続けて撮影ができます。
- ピントが固定された後に被写体が動いた（撮影距離が変化した）場合は、いったんシャッターボタンやAE／AFロックボタン AE-L AF-L から指を離し、フォーカスロックを解除してからピントを合わせ直してください。

オートフォーカスが苦手な被写体について

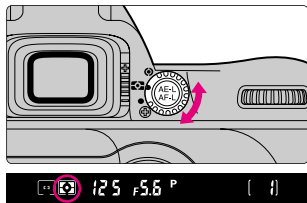
■次のような被写体では、オートフォーカスでピント合わせができない場合があります。このような場合は、M（マニュアルフォーカス ☞ P.49）に切り換えてマニュアルでピントを合わせて撮影するか、フォーカスロック（☞ P.46）を利用しておおよそ同じ距離の被写体にピントを合わせ、そのまま構図を元に戻して撮影してください。

明暗差がはっきりしない場合
（白壁や背景と同色の服をきている人物等）

フォーカスフレーム内に遠いものと近いものが混在する被写体
（オリの中の動物や木の前の人物等）

連続した繰り返しパターンの被写体
（ビルの窓等）

フォーカスフレーム内の被写体の輝度差が著しく異なる場合
（太陽が背景に入った日陰の人物等）

■マニュアルフォーカス（手動）によるピント合わせ

- フォーカスモードセレクトダイヤルを **M**（マニュアル）にセットし、レンズの距離リングを回して、ファインダースクリーンのマット面の像がはっきり見えるようにピントを合わせます。シャッターは、ピント表示 ● の点灯・消灯にかかわらず、きることができます。マニュアルフォーカスは、オートフォーカスが苦手な被写体（☞ P.48）を撮影する時や、AFニッコール以外のレンズ（☞ P.36）を装着している時にご使用ください。
- A-M切り換え方式のレンズを装着して、マニュアルフォーカスでピントを合わせる場合は、レンズ側もMにセットしてご使用ください。また、M/A（マニュアル優先オートフォーカス）モード機能を搭載しているレンズを装着する場合は、レンズ側はM/AまたはMのどちらにセットしてもマニュアルフォーカスは可能です。詳細はご使用になる各レンズの使用説明書をご覧ください。

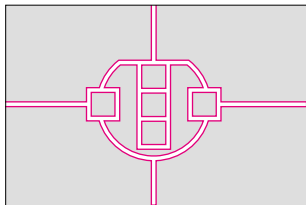
■フォーカスエイドによるピント合わせ

- フォーカスモードセレクトダイヤルを **M**（マニュアル）にセットした時、開放絞りがf/5.6以上明るいレンズを装着すると、ファインダー内表示のピント表示 ● によって合焦状態を確認できる「**フォーカスエイドによるピント合わせ**」が行えます。
- シャッターボタンを半押しして、半押しタイマーが作動中にレンズの距離リングを回し、ピントを合わせたいものに選択しているフォーカスエリアを重ねて、ピント表示 ● を点灯させます。シャッターはいつでもきることができます。また、いずれのフォーカスエリアを選択してもフォーカスエイドが行えます（☞ P.44）。

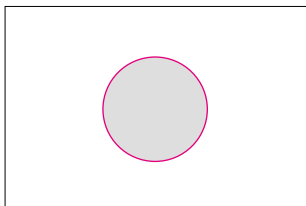
測光モードについて

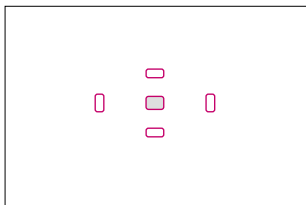
■測光モードセレクトダイヤルを切り換えることにより、3つの測光モードから被写体の光の状況に最適な測光モードを選ぶことができます。

測光モードセレクトダイヤルを回して、任意の測光モードにセットします。

- 各測光モードをセットすると、ファインダー内表示に測光モード表示が表示されます。
- CPU内蔵ニッコール以外のレンズは、測光できません。

■測光モードの種類と特長は次のとおりです。

：10分割マルチパターン測光・3D-10分割マルチパターン測光

「**10分割マルチパターン測光**」は、撮影画面を図のように10分割して、それぞれの部分を独立して測光した情報に基づいて、最適な露出値を決定します。さらにDタイプまたはGタイプニッコールレンズを装着した場合には、画面内の最大輝度、輝度差情報に加え、カメラから被写体までの距離情報を加味して測光の精度を高めた、「**3D-10分割マルチパターン測光**」となります。このモードを使えば、ほとんどの被写体で適正露出を得ることができます。
ただし、AEロック（☞ P.60）や露出補正（☞ P.62）を行う時は、中央部重点測光またはスポット測光をおすすめします。

[◉]：中央部重点測光

「**中央部重点測光**」は、ファインダー中央部（φ12mmの円内）を重点的に測光して露出値を決定しますので、φ12mmの円内の露出を基準に撮影したい場合に適しています。

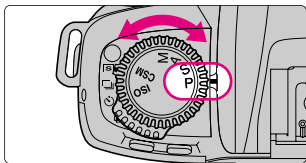
[•]：スポット測光

「**スポット測光**」は、フォーカスエリアに重なるφ4mm相当（全画面の約1%)を測光して露出値を決定します。逆光時やコントラストが激しい時など、狭い範囲での露出を基準に撮影したい場合に適しています。

- 測光範囲はフォーカスエリアセレクターで選択されたフォーカスエリアに連動するため、撮影したい構図にフォーカスエリアセレクターを操作した場合、そのフォーカスエリアに連動して測光エリアも移動します。
- 至近優先ダイナミックAFモード時（☞ P.42）は、常に画面中央のフォーカスフレームに対応したスポット測光が行われます。

■P：マルチプログラムオート

撮影状況に応じて、最適露出となるようシャッタースピードも絞りもカメラが自動的に制御しますので、スナップ写真など、シャッターチャンスを優先して気軽に撮影したい時などに便利です。
プログラムシフトや露出補正（☞ P.62）、オートブラケティング（☞ P.63）などの併用により、高度な撮影も楽しめます。

- マルチプログラムオート撮影は、CPU内蔵ニッコールレンズ装着時のみ撮影が行えます（☞ P.36）。

1 露出モードダイヤルを P にセットします。

! 注意 Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズについて

Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズの絞りリングは、必ず最小絞り（最も数値の大きい絞り）にセットしてください。絞りリングが最小絞りにセットされていない時は、表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。

- CPU内蔵ニッコール以外のレンズ装着時には、表示パネルとファインダー内表示の絞り表示に F-- が点滅し、シャッターがきれません。この場合、露出モードを **M** にして（☞ P.58）、絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行って、撮影してください。ただし、カメラの露出計は使用できません。詳細は ☞ P.36 **「このカメラに使用可能なレンズについて」**をご覧ください。

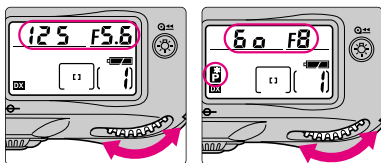
2 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

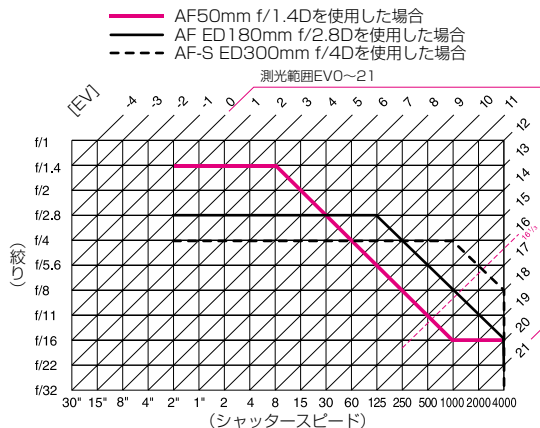
- 次の警告が表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合は、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。以下のように対応してください。

・HI：ND（光量調節用）フィルターを使用してください。

・Lo：スピードライトを使用してください。

メモ　プログラムシフトについて

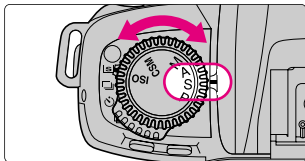
マルチプログラムオートで撮影中にメインコマンドダイヤルを回すと、露出を一定にしたままシャッタースピードと絞りの組み合わせを変えることができます。この機能により、マルチプログラムオートにセットしたままシャッター優先オートや絞り優先オートのような使い方ができます。プログラムシフト中は表示パネルにプログラムシフトマーク が点灯します。解除するには、プログラムシフトマーク が消灯するまでメインコマンドダイヤルを回す、他の露出モードに切り換える、電源スイッチをOFFにする、内蔵スピードライトを使用する（☞ P.84）、ツーボタンリセット（☞ P.78）を行うなどで可能です。

[参考] プログラム線図について

プログラム線図はプログラムオート撮影時の露出制御をグラフにしたものです（ISO100の場合）。

- フィルム感度に応じた測光範囲により、EV値の両端に制限があります。
- マルチパターン測光では、ISO100の時16 1/3を越えるEV値では、すべて16 1/3として制御されます。

■S：シャッター優先オート

撮影者が好みのシャッタースピード（30秒～1/4000秒）をセットすると、カメラが自動的に絞りを制御します。スポーツシーンの撮影など被写体の動きを速いシャッタースピードで写し止める、または遅いシャッタースピードで強調するなど、シャッタースピードを重視した撮影に最適です。

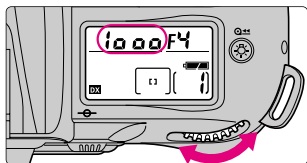
● シャッター優先オートはCPU内蔵ニッコールレンズ装着時のみ撮影が行えます（☞ P.36）。

1 露出モードダイヤルを S にセットします。

! 注意 Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズについて

Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズの絞りリングは、必ず最小絞り（最も数値の大きい絞り）にセットしてください。絞りリングが最小絞りにセットされていない時は、表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。

● CPU内蔵ニッコール以外のレンズ装着時には、表示パネルとファインダー内表示の絞り表示に F-- が点滅し、シャッターがきれません。この場合、露出モードを **M** にして（☞ P.58）、絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行って撮影してください。ただし、カメラの露出計は使用できません。詳細は ☞ P.36 **「このカメラに使用可能なレンズについて」** をご覧ください。

● 露出モードを**M**（マニュアル）にして bulb にセットした後、bulb を解除しないで**S**（シャッター優先オート）にセットすると、 bulb 表示が点滅してシャッターはきれません。**S**で撮影する場合はメインコマンドダイヤルを回して bulb 以外のシャッタースピードにセットしてください。

2 メインコマンドダイヤルで好みのシャッタースピード（30秒～1/4000秒）をセットします。

CSM 12：シャッタースピードのセットをサブコマンドダイヤルで行えるように変更できます（☞ P.76）。

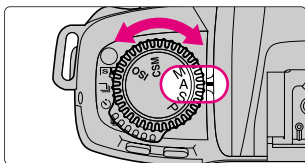
3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

- 次の警告が表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合は、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています（同時にオーバー、アンダーの量を示す露出インジケーターが点灯します）。以下のように対応してください。
  - ・HI：シャッタースピードをより高速側にセットし、それでも警告表示が消えない時は、ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
  - ・Lo：シャッタースピードをより低速側にセットし、それでも警告表示が消えない時は、スピードライトを使用してください。

■A：絞り優先オート

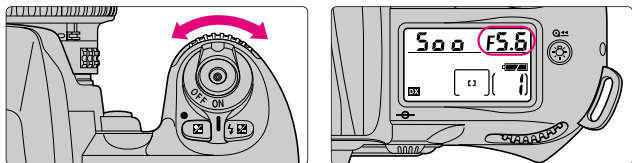
撮影者が絞り（最小絞り～開放絞り）をセットすると、カメラが自動的にシャッタースピードを制御します。手前から奥まで鮮明に写す、背景をボカすなど、被写界深度（ピントの合う前後の範囲 ☞ P.90）を優先した撮影に最適です。また、スピードライト撮影時には、絞りを変えることにより調光範囲の変更も行えます（☞ P.85）。

- 絞り優先オートはCPU内蔵ニッコールレンズ装着時のみ撮影が行えます（☞ P.36）。

1 露出モードダイヤルで露出モードを A にセットします。

! 注意　Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズについて

Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズの絞りリングは、必ず最小絞り（最も数値の大きい絞り）にセットしてください。絞りリングが最小絞りにセットされていない時は、表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。

- CPU内蔵ニッコール以外のレンズ装着時には、表示パネルとファインダー内表示の絞り表示に F-- が点滅し、シャッターがきれません。この場合、露出モードを **M** にして（☞ P.58）、絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行って撮影してください。ただし、カメラの露出計は使用できません。詳細は ☞ P.36**「このカメラに使用可能なレンズについて」**をご覧ください。

2 サブコマンドダイヤルで好みの絞り（最小絞り～開放絞り）をセットします。

CSM 12：絞りのセットを、メインコマンドダイヤルで行えるように変更できます（☞ P.76）。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

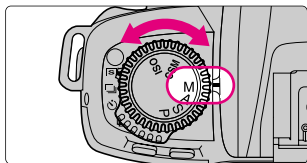
- 次の警告が表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合は、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています（同時にオーバー、アンダーの量を示す露出インジケーターが点灯します）。以下のように対応してください。

  ・HI：より大きい数値の絞りにし、それでも警告表示が消えない時は、ND（光量調節用）フィルターを使用してください。

  ・Lo：より小さい数値の絞りにし、それでも警告表示が消えない時は、スピードライトを使用してください。

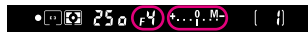
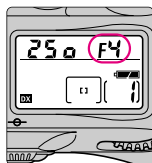
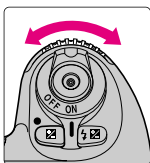
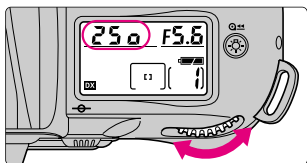
■M：マニュアル

シャッタースピード（bulbおよび30秒～1/4000秒）も絞り（最小絞り～開放絞り）も、撮影者が自由にセットできるので、ファインダー内表示の露出インジケーターを見ながら、撮影状況や目的に合わせた露出決定ができます。**「長時間露出（バルブ）」**もこのモードでセットします。

1　露出モードダイヤルを M にセットします。

! 注意　Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズについて

Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズの絞りリングは、必ず最小絞り（最も数値の大きい絞り）にセットしてください。絞りリングが最小絞りにセットされていない時は、表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。

- CPU内蔵ニッコール以外のレンズ装着時には、表示パネルとファインダー内表示の絞り表示に F-- が点灯します。絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行って撮影してください。ただし、カメラの露出計は使用できません。詳細は ☞ P.36 **「このカメラに使用可能なレンズについて」**をご覧ください。

2　露出インジケーターを確認しながら、シャッタースピードと絞りをセットします。

- シャッタースピード（bulbおよび30秒～1/4000秒）はメインコマンドダイヤルでセットし、絞り（最小絞り～開放絞り）はサブコマンドダイヤルでセットします（どちらを先にセットしてもかまいません）。
- シャッタースピードを bulb にセットすると長時間露出（バルブ）撮影（☞ P.67）となります。
- シャッタースピードを1／125秒にセットすれば、裏ぶたを開けたままでシャッターがきれます。
- 露出補正をセットした場合、インジケータ表示が変わるのみで、撮影者がセットしたシャッタースピードと絞り値は変わりません。

CSM 12：シャッタースピードのセットをサブコマンドダイヤルで、絞りのセットをメインコマンドダイヤルで行えるように変更できます（☞ P.76）。

メモ **露出インジケーターについて**

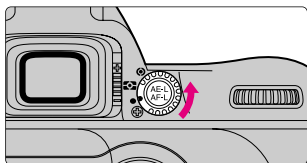
長時間露出（バルブ）撮影時を除いて、撮影者がセットしたシャッタースピードと絞り値の組み合わせによる露出値と、カメラが測光した露出値との差が表示されます。
カメラの測光限界を超えると、露出インジケーターが点滅警告します。
露出インジケーターの見方は以下のとおりです。

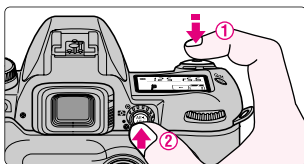
適正露出の状態	1/2段アンダーの状態	3段以上オーバーの状態
+. . . 0 . . .-	+. . . 0 . . .-	+. . . 0 . . .-

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

AEロック撮影

■AEロック撮影は、撮影画面内の特に露出を合わせたい部分をスポット測光などにより測光し、AE／AFロックボタン AE-L AF-L を押してその露出をカメラに記憶させたまま、構図を変えて撮影する方法です。露出を合わせたい部分とその周囲とで、著しく明るさが異なる場合などに便利です。露出モードは M（マニュアル）以外にセットしてください。

1 測光モードをスポット測光または中央部重点測光にセットします。

● マルチパターン測光は十分なAEロックの効果が期待できないため、おすすめできません。

2 露出を合わせたい部分にフォーカスエリアを重ね、シャッターボタンを半押ししたまま①、AE／AFロックボタン AE-L AF-L を押して②、ピント表示 ● の点灯を確認します。

● AE／AFロックボタン AE-L AF-L を押している間は、測光モードに応じた部分の露出が記憶（ロック）され、構図を変えても露出は変わりません。

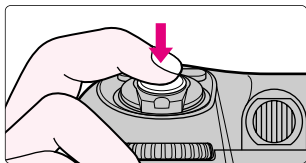
● AE／AFロックボタン AE-L AF-L を押すと、ファインダー内表示にAEロック表示 **EL** が点灯します。

●スポット測光にセットした場合、次の部分が測光エリアとなります。
1.スポット測光で、測光エリアとフォーカスエリアが連動する場合（☞ P.51）は、選択してあるフォーカスエリアを重ねた部分の露出が記憶されます。
2.スポット測光で、至近優先ダイナミックAFモード時（☞ P.42）は、画面中央のフォーカスフレームに相当する部分の露出が記憶されます（☞ P.51）。

● 中央部重点測光にセットした場合は、中央部φ12mmの円内の露出が記憶されます。

● フォーカスモードがシングルAFサーボ（AF-S）または コンティニュアスAFサーボ（AF-C）の場合、フォーカスロック（☞ P.46）も同時に行われますので、ピント表示 ● の点灯も確認してください。

CSM 11：AE／AFロックボタン AE-L/AF-L を押した時に、AEロックだけ行われるように変更できます（☞ P.75）。

3 AE／AFロックボタン AE-L/AF-L を押したまま、構図を決めて撮影します。

● AE／AFロックボタン AE-L/AF-L を押している間、次の操作が可能です。

1. 露出モードがP（マルチプログラムオート）の場合は、プログラムシフト（☞ P.53）が可能です。
2. 露出モードがS（シャッター優先オート）の場合は、シャッタースピードの変更が可能です。
3. 露出モードがA（絞り優先オート）の場合は、絞りの変更が可能です。

いずれも、変更した後の露出表示はそれぞれ制御されるシャッタースピード、絞りが表示されます。

● AEロック中は、測光モードセレクトダイヤルを切り換えても測光モードは変わりません（AEロックを解除すれば変わります）。

CSM 7：シャッターボタンの半押しでAEロックが行えるように変更できます（☞ P.74）。

CSM 11：AE／AFロックボタン AE-L/AF-L を押すと指を離してもAEロックの状態が保持され、再度AE／AFロックボタン AE-L/AF-L を押すと解除されるように変更できます（☞ P.75）。

測光・露出

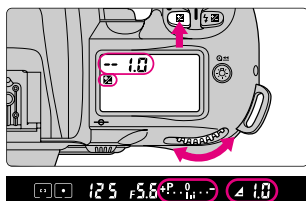
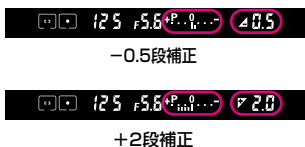
露出補正

■露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることをいいます。たとえば、ハイキー（全体に明るいトーン）、ローキー（全体に暗いトーン）など、作画意図に応じた露出表現をしたい場合などに使用します。測光モードは中央部重点測光またはスポット測光をおすすめします。いずれの露出モードでもセット可能です。（ただし露出モードがM時は、インジケータ表示が変わるのみで、撮影者がセットしたシャッタースピードと絞り値は変わりません）

1 露出補正ボタン を押しながら、メインコマンドダイヤルで補正量（1/2段ステップで±3段）をセットします。

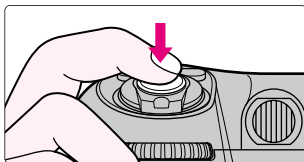
・露出補正インジケーターの表示例

−0.5段補正

＋2段補正

● 補正量をセットすると、表示パネルとファインダー内表示に露出補正マーク が点灯します。補正量は露出補正ボタンを押すだけで確認できます。さらに、ファインダー内表示の露出インジケーターが露出補正インジケーターとして表示されます。その際、露出インジケーターの 0 は点滅します。

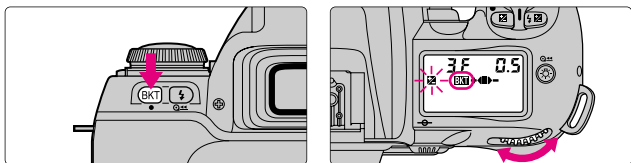
● 補正の目安としては、被写体（たとえば人物など）に対して、背景が明るい場合は**＋側**に、背景が暗い場合は**−側**に補正するのが基本です。

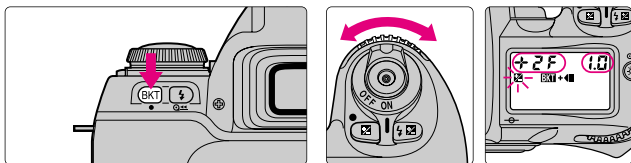
● スピードライトの光量のみを補正する調光補正についてはP.87をご覧ください。

2 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

● 露出補正を解除する場合は、露出補正ボタン を押しながら、メインコマンドダイヤルで補正量を0.0にセットするか、ツーボタンリセット（☞ P.78）を行ってください（電源スイッチをOFFにしても解除されません）。

オートブラケティング(自動段階露出)

■オートブラケティングをセットすれば、いずれの露出モードでもシャッターをきるごとにカメラが表示する適正露出値（露出モードがマニュアルの場合は撮影者がセットした露出値）に対して、セットした撮影枚数（最大2または3枚）と補正ステップで、自動的に露出をずらした（露出補正なしで最大±2段）撮影が行えます。
たとえば、適正露出の許容範囲（ラチチュード）が小さいカラースライド撮影などで、被写体にコントラストの強いものがある場合にも、現像後に、段階的に露出をずらした写真から作画意図に合ったものを選ぶことができます。

1 オートブラケティングボタン BKT を押しながら、メインコマンドダイヤルでブラケティングマーク BKT を点灯させます。

- ブラケティングマーク BKT を点灯させると、露出補正マーク が点滅します。
- 露出モードが **P**（マルチプログラムオート）の時は「**シャッタースピード**」と「**絞り**」が、**S**（シャッター優先オート）の時は「**絞り**」が、**A**（絞り優先オート）と **M**（マニュアル）の時は「**シャッタースピード**」が変化します。
- いずれの露出モードでも、スピードライト使用時は、スピードライトで照らされた主要被写体のTTL調光レベル（SBブラケティング）と、定常光で照らされている背景の露出（AEブラケティング）の両方に補正が行われます。

2 オートブラケティングボタン BKT を押しながら、サブコマンドダイヤルで撮影枚数と補正ステップをセットします。

- 撮影枚数と補正ステップの組み合わせは、次ページをご覧ください。

測光・露出

■撮影枚数と補正ステップの組み合わせは次のとおりです。

● オートブラケティングボタン BKT を押しながらサブコマンドダイヤルを回すごとに、表示は次のように変化します。

撮影枚数と補正ステップ	ブラケティングバーグラフ	撮影順序
3F 0.5	+◀■▶−	0／-0.5／+0.5
3F 1.0	+◀■▶−	0／-1.0／+1.0
3F 1.5	+◀■▶−	0／-1.5／+1.5
3F 2.0	+◀■▶−	0／-2.0／+2.0
+2F 0.5	+◀■	0／+0.5
+2F 1.0	+◀■	0／+1.0
+2F 1.5	+◀■	0／+1.5
+2F 2.0	+◀■	0／+2.0
−2F 0.5	■▶−	0／-0.5
−2F 1.0	■▶−	0／-1.0
−2F 1.5	■▶−	0／-1.5
−2F 2.0	■▶−	0／-2.0

CSM 3：マイナス側からプラス側へ順番に撮影されるように変更できます（☞ P.73）。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

● 撮影中はシャッタースピードと絞りも補正された値が表示されます。

● 解除するには、オートブラケティングボタン BKT を押しながらメインコマンドダイヤルで表示パネルのブラケティング表示 BKT を消灯させるか、またはツーボタンリセット（☞ P.78）を行います。コマンドダイヤルで解除し、再度オートブラケティングをセットする場合は、前回セットした撮影枚数と補正ステップは保持されます。ツーボタンリセットで解除し、再度オートブラケティングをセットする場合は、撮影枚数と補正ステップは「 3F 0.5 」に自動的にリセットされます。

● オートブラケティングと露出補正（☞ P.62）や調光補正（☞ P.87）が同時にセットしてある場合、両方の補正値が加算されたオートブラケティング撮影が行えます。±2段を超えるオートブラケティング撮影を行う場合に便利です。

● フィルム給送モードを ⧉（連続巻き上げ）にセットして撮影している場合、シャッターボタンを押し続けると、セットした枚数が終了した時点でいったん自動的に停止します。

● オートブラケティング撮影の途中でフィルムが終わってしまった場合、フィルム交換後に残りの撮影が行えます。また、撮影中に電源スイッチをOFFにした場合も再びONにすれば残りの撮影が行えます。

● セルフタイマー撮影時（☞ P.70）には、セットした撮影枚数のオートブラケティング撮影が1枚ずつ行われます。

多重露出撮影

■多重露出撮影では、フィルムの同一コマ上に画像を何回も重ねて撮影することができます。いずれの露出モードでもセット可能です。

1　給送モードセレクトダイヤルロックボタンを押しながら、給送モードセレクトダイヤルを多重露出 ▣ にセットします。

● セットするとファインダー内表示に多重露出マーク ▣ が点灯します。

2　撮影状況に応じて、露出補正ボタン ☒ を押しながら、メインコマンドダイヤルで補正量をセットします。

メモ　多重露出撮影時の露出補正について

多重露出はフィルムの同一コマ上に何度も露出を与えますので、背景や被写体が重なっていく場合、多重露出の回数に応じた露出補正を撮影前にセットする必要があります。一般的な補正量の目安は右表のとおりです。

多重露出の回数	補正量のセット
2回	-1.0
3回	-1.5
4回	-2.0
8~9回	-3.0

● 実際の補正量は条件によって変わりますので、テスト撮影をおすすめします。

● 背景が完全に黒く、被写体が画面内で重ならないような場合は、露出補正を行わず、各露出ごとに適正露出で撮影するのが基本です。

● 多重露出の際、画面がわずかにずれることがあります。特にフィルムの最初と最後のコマでの撮影は、フィルムの巻きぐせがありますのでおすすめできません。

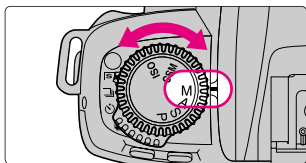
3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

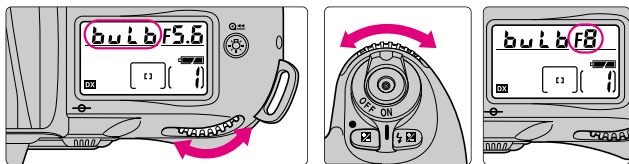
- シャッターボタンを押すと1回目の露光が行われます。フィルムの給送は行われず、2回目以降にシャッターボタンを押すと多重露出撮影となります。
- 多重露出撮影は、一回目にシャッターをきるとファインダー内表示の多重露出マーク ▣ が点滅します。また、ファインダー内表示と表示パネルのフィルムカウンターのカウントアップが行われず、点滅します。
- 解除する場合は、給送モードセレクトダイヤルを多重露出 ▣ 以外にセットしてください。このとき、半押しタイマーが作動中であれば、フィルムは給送されます。半押しタイマーが作動中でないときは、シャッターボタンを半押しするとフィルムは給送されます。フィルムが給送されるとフィルムカウンターがカウントアップされます。

CSM 14：通常、多重露出撮影はシャッターボタンを押すごとに1回シャッターがきれる1コマ撮影ですが、連続撮影に変更できます（☞ P.76）。

長時間露出撮影

■長時間露出は夜景や天体撮影など、30秒を超えるシャッタースピードで撮影したい時に便利です。シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになりますので、三脚等を使用し、カメラを安定させてから撮影してください。

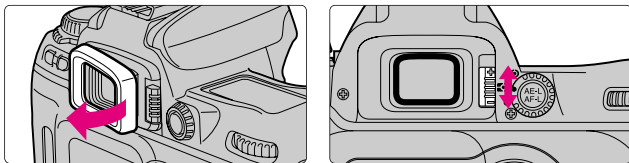
1 露出モードダイヤルを M（マニュアル）にセットします。

- 長時間露出撮影を行う場合は、あらかじめカメラを三脚などで固定して、安定させてください。また、シャッターボタンを指で押し続ける代わりに、レリーズソケットにケーブルレリーズ（別売り ☞ P.99）を装着すると手ブレを軽減させることができます。
- イルミネーター（☞ P.68）を使用すると、夜景や天体の撮影時、暗い所での表示パネルの確認が行いやすくなります。

2 メインコマンドダイヤルでシャッタースピードを bulb にセットし、サブコマンドダイヤルで絞りをセットします。

- 露出モードを**M**（マニュアル）にして bulb にセットした後、bulb を解除しないで **S**（シャッター優先オート）にセットすると、 bulb 表示が点滅してシャッターはきれません（☞ P.54）。
- 連続撮影可能時間は、新品リチウム電池を使用して約6時間です。ただし、低温時には電池の性能が低下しますので短くなります。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

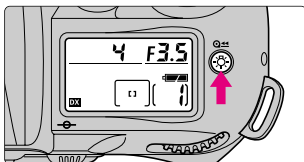
- シャッターボタンを押している間は、シャッターが開いたままとなります。

視度調節機能／イルミネーターについて

■視度調節機能により、ファインダー内の像を見やすくできます。

- 接眼目当てを取り外し、ファインダーをのぞきながら、ファインダー内のフォーカスフレーム、またはファインダー内表示が最もシャープに見える位置まで視度調節レバーをスライドさせ、再度接眼目当てを取りつけます。
- 視度調節は－1.8～＋0.8m^{-1}（近視～遠視）の間で可能です。また、別売りの接眼補助レンズは－5～＋3m^{-1}の間で9種類が用意されています（☞ P.98）。

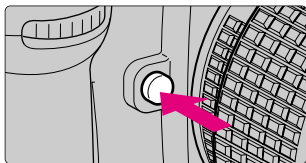
! 注意　視度調節レバーをスライドさせる際のご注意

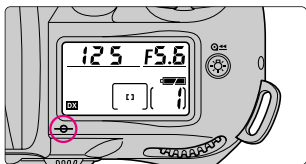
ファインダーをのぞきながら視度調節レバーをスライドさせる際、目に近い位置での操作となりますので、指先やつめで目を傷つけないように注意してください。

■イルミネーターを点灯させると、暗い所で表示パネルの表示が確認しやすくなります。

- イルミネーターボタン ☼ を押すと、半押しタイマーが作動するとともに表示パネルが照明されます。
- イルミネーターは半押しタイマーの作動中は点灯し続けます。ただし、シャッターボタンを半押しするか、シャッターをきった直後には消灯します。

CSM 17：イルミネーターが、各ボタンの操作と同時に点灯するように変更できます（☞ P.77）。

プレビューボタン／距離基準マークについて

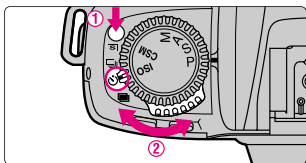
■プレビューボタンを押すと、カメラのファインダーをのぞいて被写界深度（ピントの合う前後の範囲 ☞ P.90）が確認できます。

- プレビューボタンを押し続けると、露出モードが **P**（マルチプログラムオート）、**S**（シャッター優先オート）の時は制御される絞りまで、露出モードが **A**（絞り優先オート）、**M**（マニュアル）の時はセットしてある絞りまで、レンズの絞り羽根が絞り込まれます。この状態でファインダーをのぞくと、その時の絞りのおおよその被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。

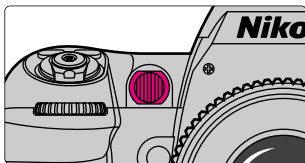
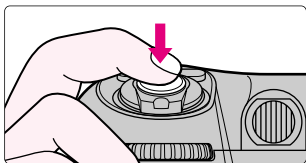
■距離基準マークは、カメラ内のフィルム面の位置を示しています。

- 距離基準マークは撮影距離の基準となるマークで、カメラ内のフィルム面の位置を示しています。接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。
- レンズ取り付け面（レンズマウント）からフィルム面までの寸法（フランジバック）は**46.5mm**です。

構図

セルフタイマー撮影

■セルフタイマーは記念写真など、撮影者自身も一緒に写りたい時などに便利です。三脚等を使用し、カメラを安定させてから行ってください。

1 給送モードセレクトダイヤルロックボタンを押しながら①、給送モードセレクトダイヤルをセルフタイマー ◌ にセットします②。

- フォーカスモードがシングルAFサーボ（AF-S）でピントが合っていない時など、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。
- 適正露出に影響を与える接眼部からの逆入光を防ぐため、**M**（マニュアル）以外の露出モードで撮影する場合は、シャッターボタンを押す前に手または付属のアイピースキャップ（☞ P.3）で接眼部を覆ってください。アイピースキャップは、接眼目当てを取り外し、ファインダー接眼部の上から差し込むように取り付けます。
- AF（オートフォーカス）でピントを合わせる場合は、セルフタイマーを作動させる時にレンズを体で覆わないように注意してください。

2 構図を決め、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせた後、さらにシャッターボタンを押し込みます。

- 作動を開始すると、セルフタイマーランプが8秒間点滅し、さらに2秒間点灯したあとにシャッターがきれます（作動時間：10秒）。
- 解除するには、給送モードセレクトダイヤルをセルフタイマー ◌ 以外にセットしてください。
- 露出モードが**M**（マニュアル）で、シャッタースピードが bulb にセットされている時は、約1/8～1/15秒の間でシャッターがきれます。

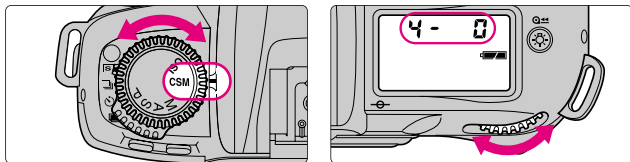
CSM 16：セルフタイマーの作動時間を2秒、5秒、20秒のいずれかに変更できます（☞ P.77）。

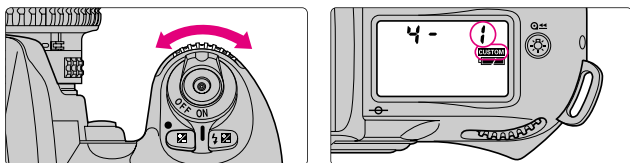
カスタムセッティング

カスタムセッティングにより、
カメラの各機能の働きやセット内容を
撮影者自身の好みにあった状態に変更できます。

カスタムセッティングの種類と特徴

■カスタムセッティングのセット方法

1 露出モード（カスタムセッティング）ダイヤルをCSMにセットして、メインコマンドダイヤルでメニューナンバーを選択します。

● メニューナンバーはF80Sで19種類（1～19）、F80Dで18種類（1～18）あります。

2 サブコマンドダイヤルで表示パネルに希望するセット内容の数字を点灯させます。

● 希望するセット内容の数字を点灯させると、表示パネルにカスタムセッティング表示 CUSTOM が点灯します。この状態で露出モード（カスタムセッティング）ダイヤルを希望する露出モードにセットすれば撮影が行えます。

● 露出モード（カスタムセッティング）ダイヤルを **CSM** の位置にセットしたままの状態では、シャッターはきれません。希望する露出モードにセットして撮影してください。

■カスタムセッティングの解除方法

露出モード（カスタムセッティング）ダイヤルを CSM にセットして、ツーボタンリセット（☞ P.78）を行います。

● カスタムセッティングはすべて解除され、初期値に戻ります。

● カスタムセッティングのセット内容を、上記の手順2の操作で「初期値」と表記されている数字（例：0）にすれば、個々に機能を解除して、初期値に戻すこともできます。

■メニューナンバーとカスタムセッティングの内容

※巻末に「カスタムセッティング機能一覧」がありますのでご活用ください。

1.フィルム終端時の自動巻き戻し　（☞ P.31）

[セット内容]　　0：する（初期値）
　　　　　　　　1：しない

通常はカメラがフィルムの終端を判断して、自動的に巻き戻しが開始しますが、自動巻き戻しが行われないように変更できます。その場合、2つのフィルム巻き戻しボタン ⊙◂◂ を同時に1秒以上押すと巻き戻しが開始します。

2.フィルム交換時のフィルム感度自動設定復帰　（☞ P.38）

[セット内容]　　0：する（初期値）
　　　　　　　　1：しない

通常は撮影者が DX 以外にフィルム感度をセットして撮影を行っても、フィルム交換を行うと DX に自動的にセットされますが、撮影者自身がセットしたフィルム感度を保持するように変更できます。

3.オートブラケティング撮影時の補正順序の変更　（☞ P.64）

[セット内容]　　0：初期設定の順（P.64をご覧ください）
　　　　　　　　1：マイナス側からプラス側へ

通常は初期設定の順（☞ P.64）で撮影されますが、マイナス側からプラス側へ順番に撮影されるように変更できます。

4.構図用格子線表示　（☞ P.5）

[セット内容]　　0：構図用格子線を表示しない（初期値）
　　　　　　　　1：構図用格子線を表示する

通常、ファインダースクリーンには、構図用格子線は表示されませんが、表示（☞ P.5）するように変更できます。

5. フォーカスエリアの照明　（☞ P.44）

[セット内容]　0：被写体の明るさにより自動照明する（初期値）
　　　　　　　1：照明しない
　　　　　　　2：被写体の明るさによらず照明する

通常、ファインダー内のフォーカスエリア（フレーム）は、フォーカスエリアセレクターで選択されたフォーカスエリアを被写体の明るさに応じて、見やすいように瞬間的に赤色に自動照明しますが、照明しない、もしくは被写体の明るさによらず照明するように変更できます。

6. フォーカスエリアの選択を循環方式に変更　（☞ P.44）

[セット内容]　0：しない（初期値）
　　　　　　　1：する

通常、フォーカスエリアセレクターを押した方向のフォーカスエリアしか選択することできませんが、フォーカスエリアセレクターの右を押すと右方向に、左を押すと左方向に、上を押すと上方向に、下を押すと下方向にそれぞれフォーカスエリアを連続的に循環させ、選択することができます。これによりフォーカスエリアセレクターの押す位置を変えることなく反対側のフォーカスエリアの選択が可能になります。

7. シャッターボタン半押しによるAEロック　（☞ P.60）

[セット内容]　0：しない（初期値）
　　　　　　　1：する

通常はAEロックボタン AE-L AF-L を押した時にAEロックが行われますが、シャッターボタンを半押しした時にAEロックが行われるように変更できます。

8. 裏ぶたを閉じるとフィルムの空送りを開始　（☞ P.23）

[セット内容]　0：する（初期値）
　　　　　　　1：しない

通常は、フィルムを入れて裏ぶたを閉じると自動的にフィルムが1コマ目まで空送りされますが、裏ぶたを閉じてシャッターボタンを押すことで空送りされるように変更できます。

9 .S（シングルAFサーボ）での至近優先ダイナミックAF（☞ P.42）

[セット内容]　0：する(至近優先ダイナミックAF・初期値)
1：しない

通常はダイナミックAFモード時にフォーカスモードセレクトダイヤルをS（シングルAFサーボ）にセットすると至近優先ダイナミックAF（☞ P.42）となりますが、至近優先ダイナミックAFにならないように変更できます。

10. C（コンティニュアスAFサーボ）での至近優先ダイナミックAF（☞ P.42）

[セット内容]　0：しない（初期値）
1：する（至近優先ダイナミックAF）

通常はダイナミックAFモード時にフォーカスモードセレクトダイヤルをC（コンティニュアスAFサーボ）にセットしても至近優先ダイナミックAF（☞ P.42）にはなりませんが、至近優先ダイナミックAFになるように変更できます。

11. AE／AFロックボタン操作による同時ロック、単独ロック、AEロックの維持、AF作動の開始　（☞ P.46/60）

[セット内容]　0：AE・AFの同時ロック（初期値）
1：AEロックのみ
2：AFロックのみ
3：AEロックの維持
4：AF作動

通常はAE／AFロックボタン AE-L AF-L を押した時にAEロック（露出の記憶）とAFロック（フォーカスロック）が同時に行われますが、AEロックのみ行われる、AFロックのみ行われる、またはAEロック状態を維持するように変更できます。「AEロック状態の維持」にセットしてAE/AFロックを行った場合は、再度AE／AFロックボタン AE-L AF-L を押すか、シャッターをきると解除されます。
また、オートフォーカス（AF）は、通常、シャッターボタンの半押しにより作動しますが、AE／AFロックボタン AE-L AF-L を押すとAFが作動するように変更できます（この場合、シャッターボタンの半押しではAFは作動しません）。

12. コマンドダイヤルの機能変更　（☞ P.54〜59）

[セット内容]　0：しない（初期値）
　　　　　　　1：する

通常のコマンドダイヤル操作とは逆に、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードのセット（**S**［シャッター優先オート］、**M**［マニュアル］時）、メインコマンドダイヤルで絞りのセット（**A**［絞り優先オート］、**M**［マニュアル］時）が行えるように変更できます。

13. フィルム巻き戻し方法の変更　（☞ P.31）

[セット内容]　0：高速巻き戻しモード（初期値）
　　　　　　　1：サイレント巻き戻しモード

通常の高速巻き戻しモードより低騒音化された、サイレント巻き戻しモードに変更できます。巻き戻し時間は36枚撮りフィルムを使用して、高速巻き戻しモードで約15秒、サイレント巻き戻しモードで約23秒（いずれも常温、新品電池使用時）となります。

14. 多重露出撮影時の撮影方法の変更　（☞ P.66）

[セット内容]　0：1コマ撮影（初期値）
　　　　　　　1：連続撮影

通常、多重露出撮影時はシャッターボタンを押すごとに1回シャッターがきれる1コマ撮影となりますが、連続撮影に変更できます。

15. 半押しタイマーの作動時間の変更　（☞ P.19）

[セット内容]　4：4秒　　　　　　8：8秒
　　　　　　　6：6秒（初期値）　16：16秒

通常は電源スイッチをONにした時やシャッターボタンを半押しした時の半押しタイマーの作動時間は6秒ですが、4秒、8秒、16秒のいずれかに変更できます（半押しタイマーを長くすると電池を消耗しますので、フィルムの撮影可能本数が少なくなります）。

16. セルフタイマーの作動時間の変更　（☞ P.70）

[セット内容]　2：2秒　　10：10秒（初期値）
　　　　　　　5：5秒　　20：20秒

通常、セルフタイマーの作動時間は10秒ですが、2秒、5秒、20秒のいずれかに変更できます。

17. 各ボタンの操作によるイルミネーターの点灯　(☞ P.68)

[セット内容]　0：しない（初期値）
　　　　　　　1：する

通常はイルミネーターボタン ☼ を押すとイルミネーターが点灯しますが、各ボタンの操作によって点灯するように変更できます。

18.内蔵AF補助光の照射　(☞ P.45)

[セット内容]　0：する（初期値）
　　　　　　　1：しない

通常、内蔵AF補助光の発光条件が満たされた場合（☞ P.45）は、シャッターボタンを半押しすると自動的に内蔵AF補助光を照射し、被写体を照らしてオートフォーカスでのピント合わせを行いますが、内蔵AF補助光を照射しないように変更できます（ただし、オートフォーカスでのピント合わせができなくなる場合があります）。

19. コマ間データ写し込み時のフィルム感度のセット（F80Sのみ ☞ P.96）

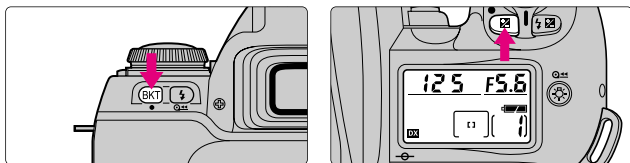
[セット内容]　0：自動設定（初期値）　3：ISO100
　　　　　　　1：ISO25以下　　4：ISO125～200
　　　　　　　2：ISO32～80　　5：ISO250以上

通常はF80Sでコマ間データの写し込みを行うと、装てんされているフィルムの感度に合わせて自動的に写し込み感度を設定しますが、撮影者自身が意図的に写し込み感度を設定するように変更できます。なお、この機能のメニューナンバーの19は、コマ間データ写し込みにセットしたときのみ表示されます。

- 標準の濃さで写し込みたい場合は、自動設定（0）または使用するフィルムの感度に合わせてください。
- 写し込みを濃くしたい場合は、使用しているフィルムより低い感度に、写し込みを薄くしたい場合は、使用しているフィルムより高い感度に設定してください。
- 特殊フィルムを使用する場合や増感、減感する場合には、あらかじめテスト撮影を行うことをおすすめします。

ツーボタンリセット

■ツーボタンリセットにより、簡単に各機能の働きやカメラ各部のセット状態を初期状態に戻すことができます。

オートブラケティングボタン BKT と、露出補正ボタン ⊠ を同時に2秒以上押し続けます（それぞれのボタンの脇にグリーンの●が表示されています）。

● 露出モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**のいずれかにセットして、ツーボタンリセットを行うと一瞬表示が消灯して、各機能の働き・セット状態は次のようになります。

機能	状態
フォーカスエリア	中央
プログラムシフト	(解除)
露出補正	(解除)
AEロック	(解除)
オートブラケティング	(解除)
シンクロモード	先幕シンクロ
調光補正	(解除)

● カスタムセッティングが行われている場合は、露出モード（カスタムセッティング）ダイヤルを**CSM**にセットして、ツーボタンリセットを行うと一瞬表示が消灯して、カスタムセッティングがすべて解除され初期値（☞ P.73～77）に戻り、表示パネルからカスタムセッティング表示 CUSTOM が消灯します（☞ P.72）。

スピードライト撮影

内蔵スピードライトや
別売りスピードライトを装着すれば
マルチエリアBL調光や5つのシンクロモードなど
多彩なスピードライト撮影が行えます。

■内蔵スピードライトについて

このカメラは28mmレンズの画角をカバーする、ガイドナンバー12（ISO100・m）のスピードライトを内蔵しており、**3D-マルチBL調光**や**マルチBL調光**による自然な感じのスピードライト写真が撮影できます。暗いところではもちろん、昼間の屋外撮影などでも、逆光の場合や主要被写体の陰影を弱めたいとき、人物の目にキャッチライトを入れたいときなどに、補助光としてもご使用できます。また、通常のスピードライト撮影の先幕シンクロに加え、スローシンクロ、後幕シンクロ、赤目軽減、赤目軽減スローシンクロと5つのシンクロモードを備えています。

- 内蔵スピードライトの調光方法は下記を、シンクロモードについてはP.82を、撮影方法はP.84をご覧ください。別売りスピードライトについてはP.88をご覧ください。

■内蔵スピードライトを使用すると、装着レンズによって次のような撮影が行えます。

装着するレンズ	可能なスピードライト撮影
DタイプまたはGタイプニッコールレンズ	3D-マルチBL調光※1（距離情報・モニター発光※2あり）
DタイプおよびGタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズ（F3AF用を除く）	マルチBL調光※1（モニター発光※2あり）
CPU内蔵ニッコール以外のレンズ	TTL調光※3

※1 露出モードをMにセットするか、測光モードをスポット測光にセットするとTTL調光となります。
※2 モニター発光を解除する場合は、露出モードをMにするか、測光モードをスポット測光にしてください。
※3 TTL調光時はモニター発光が行われません。

[3D-マルチBL調光]

DタイプまたはGタイプニッコールレンズ装着時に可能です。測光情報をもとに主要被写体と背景光のバランスを考慮したBL（バランス）調光を行います。
シャッターボタンを押すと、スピードライトが本発光直前にモニター発光を行い、被写体から戻ってくる反射光をカメラ内のTTL自動調光用5分割センサーが瞬時に測光します。さらに、レンズから得られた被写体までの距離情報も加味して、調光領域と調光レベルを総合的に決定します。
画面内に極端に反射率の高いものがある、背景が大きく抜けているような撮影状況でも、主要被写体と背景の明るさをバランスよくコントロールしたスピードライト撮影が行えます。

- 内蔵スピードライトを使用時は、カメラの露出モードは **M** 以外に、測光モードはスポット測光以外にセットしてください。

[マルチBL調光]

Dタイプおよび Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズを装着すると、3D-マルチBL調光のレンズからの距離情報が省略された、マルチBL調光になります。

- 内蔵スピードライトを使用時は、カメラの露出モードは **M** 以外に、測光モードはスポット測光以外にセットしてください。

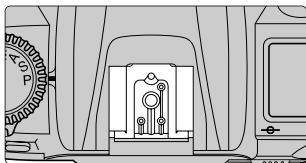
3D-マルチBL調光とマルチBL調光を総称してマルチエリアBL調光と呼びます。

[TTL調光]

CPU内蔵ニッコール以外のレンズ装着時には自動的にTTL調光となります（露出モードが **M** のときのみ使用できます ☞ P.58）。また、CPU内蔵ニッコールレンズ装着時にも、内蔵スピードライト使用時にカメラの露出モードを **M** にセットするか、測光モードをスポット測光にセットすると、自動的にTTL調光となります。背景の明るさは考慮されず、主要被写体が適正露出となるように調光されます。主要被写体を強調する場合や、調光補正を行う時に適しています。なお、TTL調光ではモニター発光は行いません。

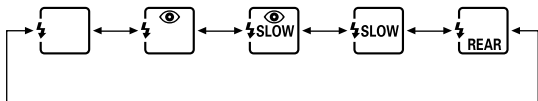
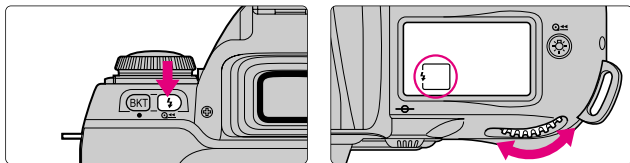
■レディライト

- 内蔵スピードライトや別売りスピードライトSB-800・80DX・50DX・30・28/28DX・27・26・25・24・23・22Sなどを使用している場合に、充電が完了して撮影が可能な状態になると、ファインダー内表示のレディライト ⚡ が点灯して知らせます。
- 内蔵スピードライト使用時や、別売りスピードライトをTTLまたは外部自動調光モードにセットして使用している時、シャッターをきった後にレディライト ⚡ が約3秒間点滅した場合は、スピードライトがフル発光して露出不足の可能性があることを警告しています。撮影距離、絞り、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。

■アクセサリーシュー

- 別売りスピードライトSB-800・80DX・50DX・30・28/28DX・27・26・25・24・23・22Sなどを使用する場合は、アクセサリーシューに差し込むだけでコードレスで接続できます。
- このカメラのアクセサリーシューはセーフティロック機構（ロック穴）を備えていますので、セーフティロックピン付きの別売りスピードライト（SB-800・80DX・30・28/28DX・27・26・25・22Sなど）を取り付けると、スピードライトが不用意に外れるのを防止できます。

シンクロモードの種類と特徴

■5つのシンクロモードの中から、撮影目的や撮影意図に合わせて希望するシンクロモードが選べます。

シンクロモードボタン ⚡ を押しながら、メインコマンドダイヤルでシンクロモードをセットします。

■シンクロモードの特長は次のとおりです。

⚡：先幕シンクロモード（通常のシンクロモード）

通常のスピードライト撮影時にはこのモードにセットします。露出モードを **P** または **A** にセットしてスピードライト撮影を行うと、カメラが適正露出になるようシャッタースピードを1／60～1／125秒に自動的にセットします（別売りスピードライトSB-26・25・24使用時はスピードライト側のシンクロセレクターでセットします）。

⚡SLOW：スローシンクロモード

露出モードを **P** または **A** にセットしてスピードライト撮影を行うと、通常はシャッタースピードが1／60～1／125秒に自動的にセットされますが、このモードでは、背景の露出を考慮してシャッタースピードが最長30秒まで延長されます。これにより、背景を描写しながらスピードライトを発光させ、夕景や夜景の雰囲気を生かした撮影が行えます。

:後幕シンクロモード

シャッター後幕の走行開始（シャッターが閉じる）直前にスピードライトを発光させます。動く被写体をスピードライト撮影する場合に、その被写体の動きを想像させる光の流れなどを被写体の後方に自然な形で表現できます。露出モードを **P** または **A** にセットすると、スローシンクロモードも自動的にセットされます（別売りスピードライトSB-26・25・24使用時はスピードライト側のシンクロセレクターでセットします）。

:赤目軽減モード

スピードライトが発光する前に約1秒間ランププリ照射を行い、暗い所で人物の目が赤く写るのを軽減することができます（赤目軽減発光機能付の別売りスピードライトSB-800使用時はSB-800がモニター発光を行い、SB-80DX・50DX・28/28DX・27・26使用時は、スピードライト側の赤目軽減ランプが発光します）。

:赤目軽減スローシンクロモード

赤目軽減モードとスローシンクロモードが同時にセットされます。露出モードは **P** または **A** にセットしてください（別売りスピードライトSB-800使用時はSB-800がモニター発光を行い、SB-80DX・50DX・28/28DX・27・26使用時は、スピードライト側の赤目軽減ランプが発光します）。

! 注意　各シンクロモードごとのご注意

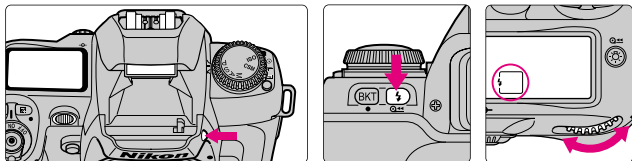
- 赤目軽減モードと赤目軽減スローシンクロモード時には、シャッターボタンを押し込んでから約1秒間ランププリ照射を行った後にシャッターがきれてスピードライトが発光しますので、シャッターがきれるまで、カメラや被写体の人物が動かないように注意してください（シャッターチャンスを優先するような撮影にはおすすめできません）。
- 装着するレンズの種類により赤目軽減ランプの光がケラレ、画面内の人物の位置によっては赤目軽減効果がそこなわれることがあります。
- 赤目軽減スローシンクロモードとスローシンクロモード時にはシャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください（三脚等を使用し、カメラを安定させてから撮影してください）。
- スタジオ用大型ストロボでは正しい同調が行えないため、後幕シンクロモードは使用できません。

内蔵スピードライトを使用した撮影

■ここでは内蔵スピードライトを使用し、カメラにDタイプまたはGタイプAFニッコールレンズを装着して行う撮影の方法をご説明します。

1 測光モードをセットします。

● スポット測光以外にセットしてください。

2 スピードライトロック解除ボタンを押してスピードライトを上げ、シンクロモードボタン ⚡ を押しながら、シンクロモードをセットします。

● スピードライトの充電が完了するとファインダー内表示にレディライトが ⚡ が点灯します（半押しタイマー作動中）。

● スピードライトを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます（使用しないときは電池の消耗を防ぐため、常に収納状態にしてください）。

3 露出モードをセットし、シャッタースピードと絞りを確認します。

● マルチプログラムオート、シャッター優先オート、絞り優先オートにセットした場合は3D-マルチBL調光、マニュアルにセットした場合はTTL調光になります。

● 露出モードごとに、セット可能なシャッタースピードと絞りは下表のとおりです。

露出モード	セット可能なシャッタースピード	セット可能な絞り	参照ページ
マルチプログラムオート	カメラが自動的に ※1 1/125秒～1/60秒にセット	カメラが自動的にセット	☞ P.52
シャッター優先オート	1/125秒～30秒 ※2		☞ P.54
絞り優先オート	カメラが自動的に ※1 1/125秒～1/60秒にセット	任意の絞り※3	☞ P.56
マニュアル	1/125秒～30秒 ※2、 bulb（バルブ）		☞ P.58

※1：スローシンクロモード、後幕シンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード選択時は、シャッタースピードが最長30秒まで延長されます。

※2：1/125秒より高速のシャッタースピードにセットしてある場合は、内蔵スピードライトを上げると（別売りスピードライトの場合はスピードライトの電源をONにすると）、自動的に同調シャッタースピードの1/125秒にセットされます。この場合、ファインダー

内表示には125が点灯し、表示パネルにはセットしたシャッタースピードが点滅します。
※3：調光範囲は使用フィルムのISO感度と絞りによって決まります。絞り優先オートまたはマニュアル時の絞りのセットは、下表の調光範囲を考慮して行ってください。

4 構図を決めピントを合わせ、ファインダー内表示にレディライト ϟ が点灯していることを確認し、調光範囲を考慮して撮影します。

- レディライト ϟ が点灯しないとシャッターはきれません。
- シャッターをきった後レディライト ϟ が約3秒間点滅した場合は、スピードライトがフル発光して露出不足の可能性があることを警告しています。撮影距離、絞り、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。
- 被写体が暗い場合は、自動的にAF補助光を照射してピントを合わせを行います。詳細についてはP.45をご覧ください。
- 露出モードがマルチプログラムオートのときは、カメラが自動設定する開放側の限界絞り値は使用するフィルム感度により異なります。P.89をご覧ください。
- スピードライト撮影時は、フィルム給送モードが⊒（連続巻き上げ）にセットされていても、連続撮影にはなりません。
- 内蔵スピードライト充電中は、VRレンズのシャッターボタン半押し中の手ブレ補正を行いません。

■内蔵スピードライトの調光範囲（光の届く範囲）について

スピードライトは使用するフィルムのISO感度と絞りによって調光範囲（光の届く範囲）が異なります。下表を参考にしてください。

ISO感度　<　>内はガイドナンバー						調光範囲（m）
25<6>	50<8.5>	100<12>	200<17>	400<24>	800<34>	
——	——	1.4	2	2.8	4	2～8.5
——	1.4	2	2.8	4	5.6	1.4～6
1.4	2	2.8	4	5.6	8	1～4.2
2	2.8	4	5.6	8	11	0.7～3
2.8	4	5.6	8	11	16	0.6～2.1
4	5.6	8	11	16	22	0.6～1.5
5.6	8	11	16	22	32	0.6～1.1
8	11	16	22	32	——	0.6～0.8

- スピードライト光の届く距離は、ガイドナンバー（このカメラの内蔵スピードライトの場合は12）÷セットした絞りによっても、割り出すことができます。

■内蔵スピードライトに使用可能なレンズについて

内蔵スピードライトには28mmから200mmまでの単焦点CPU内蔵ニッコールレンズおよびAF ED300 f/4とAF-S ED300 f/4が使用できます。また、下表のレンズではスピードライト光がレンズでさえぎられて、写真の一部に影ができる（ケラレ）ことがあります。ケラレなく撮影できる焦点距離や撮影距離に気をつけて撮影をしてください。

! 注意　内蔵スピードライト使用時のご注意

- レンズフードは取り外して使用してください。
- 撮影距離0.6m未満では使用できません。
- マクロ付きズームレンズはマクロ領域では使用できません。
- ケラレが発生しやすい近距離でのスピードライト撮影では、別売りスピードライトの使用をおすすめします。
- 一般的なカラープリントでは、フィルムの周辺がカットされるためリバーサルフィルム使用時に比べてケラレが減少します。

制限のあるAFレンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離および撮影距離
AF-S ED17～35mm f/2.8	焦点距離35mm時（撮影距離1.5m以上）
AF 18～35mm f/3.5～4.5	焦点距離28mm以上（28mm時は撮影距離1m以上）
AF 20～35mm f/2.8	焦点距離28mm以上（28mm時は撮影距離2m以上、35mm時は撮影距離0.7m以上）
AF 24～85mm f/2.8～4	焦点距離28mm以上（28mm時は撮影距離1m以上）
AF-S ED24～85mm f/3.5～4.5G	焦点距離28mm以上
AF-S VR ED24～120mm f/3.5～5.6G	焦点距離28mm以上（28mm時は撮影距離2m以上）
AF 24～120mm f/3.5～5.6	焦点距離28mm以上（28mm時は撮影距離0.8m以上）
AF-S ED28～70mm f/2.8	焦点距離50mm以上（50mm時は撮影距離0.8m以上）
AF 28～85mm f/3.5～4.5	焦点距離28mm時は撮影距離2m以上
AF 28～100mm f/3.5～5.6G	焦点距離28mm時は撮影距離1m以上
AF 35～70mm f/2.8	焦点距離35mm時は撮影距離0.8m以上
AF マイクロ ED70～180mm f/4.5～5.6	焦点距離70mm時は撮影距離0.7m以上
AF-S VR ED200～400mm f/4G	焦点距離200mm時は撮影距離3m以上、250～300mm時は撮影距離2.5m以上

※内蔵スピードライト撮影時に使用できるCPU内蔵ニッコール以外のレンズは、200mmf/2レンズを除く、焦点距離が28mmから200mmまでのニッコール（Ai-S,Ai,改造Ai）、ニコンレンズシリーズEが使用できます。但し以下のレンズは使用に制限があります。

・Ai-s・Ai 25-50mm f/4（焦点距離40mm以上［40mm時は撮影距離0.8m以上］）
・Ai-S 28-85mm f/3.5-4.5（焦点距離35mm以上）
・Ai 35-70mm f/3.5（焦点距離35mm時は撮影距離1m以上）
・Ai 28-45mm f/4.5（焦点距離28mm時は撮影距離1m以上）
・Ai改 50-300mm f/4.5（焦点距離200mm以上）
・Ai-S・Ai 50-300mm f/4.5（焦点距離135mm以上）
・Ai-S 80-200mm f/2.8（焦点距離105mm以上）
・Ai改 85-250mm f/4（焦点距離135mm以上）

調光補正

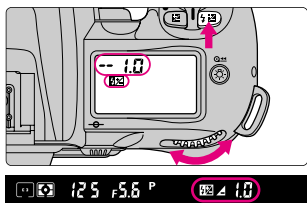
■調光補正とは、スピードライトとカメラが行う適正な調光を意図的に変えることをいいます。たとえば、発光量をより多くして主要被写体を一段と明るく照らしたいとき、あるいは発光量をより少なくして、主要被写体に光が強く当たり過ぎないようにしたいときに使用します。

1　調光補正ボタン を押しながら、メインコマンドダイヤルで補正量（1/2段ステップで＋1段〜－3段）をセットします。

・調光補正量の表示例

125 F5.6 P 0.5

－0.5段補正

125 F5.6 P 1.0

＋1段補正

- 補正量をセットすると、表示パネルとファインダー内表示に調光補正マーク が点灯します。補正量の確認は調光補正ボタン を押すだけで行えます。
- 補正の目安としては、被写体（たとえば人物など）に対して、背景が明るい場合は**＋側**に、背景が暗い場合は**－側**に補正するのが基本です。

2　スピードライトロック解除ボタンを押してスピードライトを上げ、シンクロモードと露出モードをセットします。

3　構図を決めピントを合わせ、ファインダー内表示にレディライト ϟ が点灯していることを確認し、調光範囲を考慮して撮影します。

- 調光補正を解除する場合は、調光補正ボタン を押しながら、メインコマンドダイヤルで補正量を0.0にセットするか、ツーボタンリセット（☞ P.78）を行ってください（電源スイッチをOFFにしても解除されません）。

使用可能な別売りスピードライトについて

■このカメラには、次の別売りスピードライトが使用できます。装着レンズ欄の① はDタイプまたはGタイプニッコールレンズ（DXおよびIXニッコールを除く）、②はDタイプおよびGタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズ、③はCPU内蔵ニッコール以外のレンズを示します。

		TTL			A	M	(マルチフラッシュ記号)	REAR	(赤目軽減記号)	
スピードライト	装着レンズ	3D-マルチBL調光	マルチBL調光	TTL調光	外部自動調光	マニュアル	マルチフラッシュ	後幕シンクロ※1	赤目軽減発光※1	モニター発光※2
SB-800、SB-80DX、SB-28/28DX	①	○※3		○※4	○	○	○	○	○	○
	②		○※3	○※4	○	○	○	○	○	○
	③			○※4	○	○	○	○	○	
SB-50DX	①	○※3		○※4		○		○	○	○
	②		○※3	○※4		○		○	○	○
	③			○※4		○		○	○	
SB-27	①	○※3		○※4	○	○		○	○	○
	②		○※3	○※4	○	○		○	○	○
	③			○※4	○	○		○	○	
SB-26※5、SB-25	①	○※3		○※4	○	○	○	○	○	○
	②		○※3	○※4	○	○	○	○	○	○
	③			○※4	○	○	○	○	○	
SB-24	①②		○※3	○※4	○	○	○	○	○	
	③			○※4	○	○	○	○	○	
SB-23、SB-29s/29※6、SB-21B※6	①②		○※7	○※8		○		○	○	
	③			○※8		○		○	○	
SB-30、SB-22s、SB-22、SB-20、SB-16B、SB-15	①②		○※7	○※8	○	○		○	○	
	③			○※8	○	○		○	○	
SB-11※9、SB-14※9 SB-140※9·10	①②		○※7	○※8	○	○		○	○	
	③			○※8	○	○		○	○	

※1：カメラ側でセットした場合、使用可能です。
※2：測光モードをスポット測光にセットすると、モニター発光が行われません。
※3：測光モードをスポット測光以外にセットしてください。
※4：測光モードをスポット測光にセットすると、TTL調光となります。
※5：ワイヤレススレーブセレクターをDにセットした場合、カメラのシャッタースピードは自動的に1/90秒より低速側に切り換わります。
※6：SB-29s/29・21B使用時のオートフォーカス撮影は、AFマイクロ（60mm・105mm・200mm・70～180mm）レンズ装着時のみ可能です。
※7：露出モードは**M**（マニュアル）以外に、測光モードはスポット測光以外にセットしてください。
※8：露出モードを**M**（マニュアル）、または測光モードをスポット測光にセットすると、TTL調光となります。
※9：SB-11·14·140を使用して、TTLモードを使用する場合は、接続にTTL調光コードSC-23が必要です。Aモード、またはMモードを使用する場合は、SB-11·14にはSC-13にSU-2を併用し、SB-140にはSC-13にSU-3を併用して、それぞれ接続します。SB-11·14·140とも、SC-11かSC-15を使用して接続することもできますが、この場合はカメラのファインダー内表示のレディライトは使用できません。また、シャッタースピードの自動切り換えも行われません。
※10：SB-140使用時の紫外線は、SB-140がMモード時のみ可能です（赤外線撮影は行えません）。

■別売りスピードライト使用時の注意

- 詳細はご使用になる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
  TTLモードが可能な別売りスピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、**Aグループカメラ**に該当する箇所をお読みください。
- スピードライト使用時の同調シャッタースピードは**1/125秒以下の低速シャッタースピード**です。
- TTLモード時のフィルム感度連動範囲は**ISO25〜1000**です。
- SB-26・25・24使用時、シンクロモードの設定はスピードライト側の設定が優先されます（カメラ側の設定は無効となります）。
- カメラのシンクロモードを「赤目軽減発光」または「赤目軽減スローシンクロ」にセットし、赤目軽減発光機能を持つ別売りスピードライトを使用すると、別売りスピードライト側の赤目軽減ランプが発光します（SB-800の場合はSB-800がモニター発光を行います）。
- フォーカスモードがAF-SでAFニッコールレンズを装着し、被写体が暗く、フォーカスエリアが中央に選択された状態か、または至近優先ダイナミックAF時以外は、アクティブ補助光を備えた別売りスピードライトを使用した場合でもアクティブ補助光は点灯しません。
- パワーブラケットSK-6とSB-24の組み合わせでは、スピードライト側のアクティブ補助光も、カメラ側のAF補助光も発光しません。
- 露出モードが**P**（マルチプログラムオート）の時、カメラが自動設定する開放側の限界絞りは、使用するフィルム感度によって下表のように制御されます。

フィルム感度(ISO)	25	50	100	200	400	800	1000
開放側の限界絞り(内蔵スピードライト)	2	2.4	2.8	3.3	4	4.8	−
開放側の限界絞り(別売りスピードライト)	2.8	3.3	4	4.8	5.6	6.7	6.7

※フィルム感度1段に対し、絞りは1/2段変化します。また、フィルム感度が表の中間値の場合も、上下のフィルム感度から比例的に変化します。なお、制御される絞りよりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

- シンクロターミナルを必要とする際には、ホットシューアダプターAS-15（別売り）をご使用ください。
- スピードライトの調光補正時はファインダー内表示に露出補正マーク±が点灯しますが、補正値は表示されません。
- 露出モードを**P**（マルチプログラムオート）にセットし、別売りスピードライトをTTLモード以外にセットしてスピードライト撮影を行うと、表示パネルにFEEが、ファインダー内表示にFEEと**P**が点滅して、シャッターがきれません。露出モードを**P**以外にセットするか、別売りスピードライトをTTLモードにセットしてください。
- SB-800・80DX・50DX・28/28DX・27・26・25を使用時にモニター発光を解除する場合は、測光モードをスポット測光にセットしてください。
- SB-50DXと内蔵スピードライトを組み合わせて使用すると、2灯発光および2灯発光によるバウンス撮影が可能です。

! 注意　他社製のスピードライトについて

他社製のスピードライト（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびスピードライトのシンクロ回路を破損することがあります。

コラム：被写界深度・予測駆動フォーカス

ここでは、ピントと被写界深度の関係や予測駆動フォーカスについての基礎知識をご説明します。

被写界深度

一点にピントを合わせると、その前後にもピントの合う範囲があります。このピントの合う範囲を**被写界深度**といい、撮影距離、レンズの焦点距離、絞りなどによって変化します。
特にレンズの絞りは、絞る（大きい数値にする）とピントの合う範囲が前後に広くなり、これを**被写界深度が深い**といいます。逆にレンズの絞りを開く（小さい数値にする）とピントの合う範囲が前後に狭くなり、これを**被写界深度が浅い**といいます。
また、他の条件が同じであれば、撮影距離が近いほど、あるいはレンズの焦点距離が長いほど被写界深度が浅くなり、撮影距離が遠いほど、あるいはレンズの焦点距離が短いほど被写界深度が深くなります。さらに、被写界深度はピントを合わせた1点の手前に浅く、奥に深くなります。被写界深度と絞り、レンズの焦点距離、撮影距離の関係は表にすると以下のようになります。

被写界深度	絞り	レンズの焦点距離	撮影距離
被写界深度が深い	絞る（大きい数値）	短い（広角レンズ）	遠い
⇕	⇕	⇕	⇕
被写界深度が浅い	開く（小さい数値）	長い（望遠レンズ）	近い

予測駆動フォーカスについて

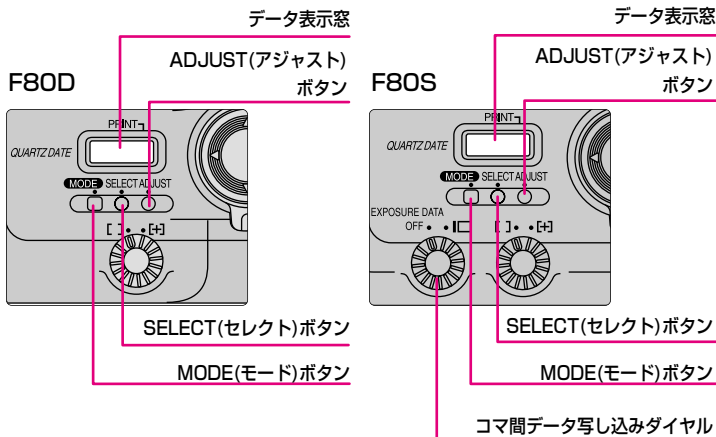
フォーカスモードセレクトダイヤルを**S**（シングルAFサーボ）または**C**（コンティニュアスAFサーボ）にセットして、シャッターボタンを半押しまたはAE/AFロックボタン（**CSM 11** により「AF作動の開始」設定時）を押し続けてピント合わせを行っている時、動いている被写体をカメラが認識すると、このカメラは自動的に**予測駆動フォーカス**に切り換わります。予測駆動フォーカス作動時は、被写体がカメラに向かって近づいてくる場合や、遠ざかっていく場合に、シャッターがきれる時点での被写体の到達位置を予測しながらピントを追い続けます。
S（シングルAFサーボ）の場合は、初めから動いている被写体には予測駆動フォーカスが作動し、被写体が静止した時点で、ピントがロックされます。**C**（コンティニュアスAFサーボ）の場合は途中から動き出した被写体に対しても予測駆動フォーカスに切り換わり、被写体が静止してもピントがロックされることはありません。

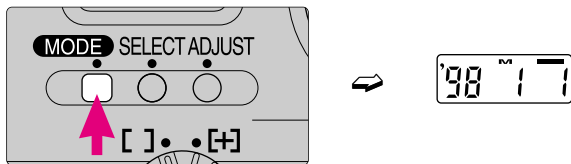
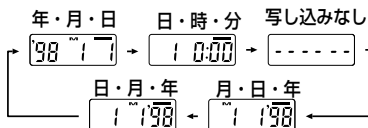
C O L U M N

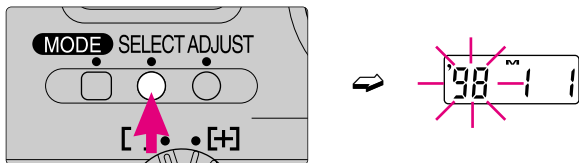
データバック編

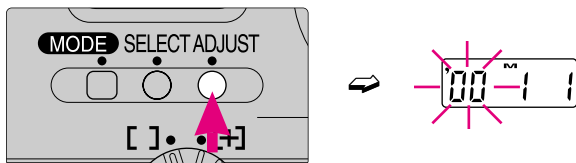
データバックにより写真に日付や時刻、
フィルムのコマの間に撮影データ（F80Sのみ）を
写し込むことができます。

日付と時刻の合わせ方、写し込みについて

■F80D／F80Sは、撮影時に「年 月 日」・「日 時 分(24時間制)」・「月 日 年」・「日 月 年」のいずれかを写し込むことが可能です（どの露出モードでも写し込みは行えます)。

■日付と時刻の合わせ方（例：2000年4月21日15時30分にセットする場合。ここではF80Dで説明していますが、F80Sも同様の操作となります)。

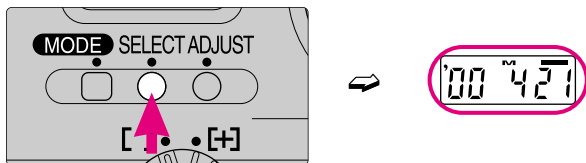
1 MODEボタンを押して日付表示モードにします。

● MODEボタンを押すごとに以下のように切り換わります。

● 日付の修正は、「日 時 分」では行えません。「年 月 日」「月 日 年」「日 月 年」のいずれかで行ってください。

2 SELECTボタンを押して「年」の数値を点滅させます。

● SELECTボタンを押すごとに「年」「月」「日」の順に点滅している数値が移動します。「'」マークは「年」の表示（西暦の下2ケタ）を示し、「M」マークは「月」を示します（「M」マークは写真には写し込まれません）。

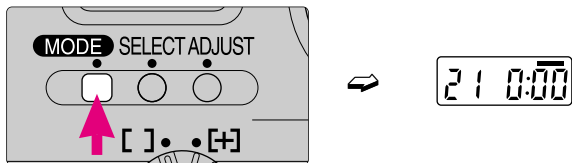
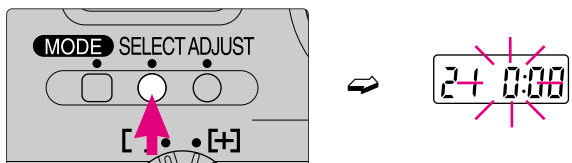
3 ADJUSTボタンを押して「年」の数値を「00」に合わせます。

● ADJUSTボタンを押すごとに「年」の数値は以下のように表示されます（西暦1998～2049年）。

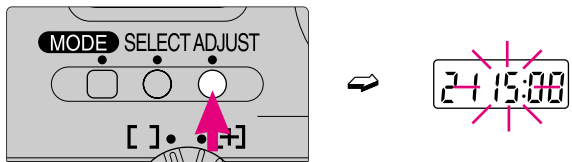
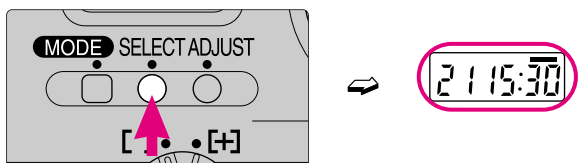
98 → 99 → 00 → 01 → … → 48 → 49

●ADJUSTボタンを1秒以上押し続けると、早送り修正が可能になります。

4 操作手順の2と3を参考に「月」「日」をセットし、SELECTボタンを押して「年」「月」「日」の数値を点灯させます。

● 「年」「月」「日」の数値の点滅が止まるまでSELECTボタンを押します。この操作で「━」（写し込み）マークが点灯すれば日付の修正は完了です。

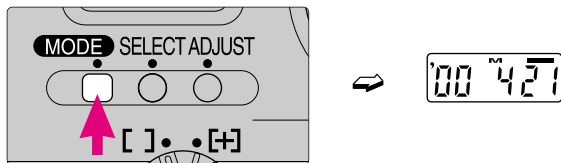
撮影

5 MODEボタンを押して「日」「時」「分」の数値を点灯させます。

6 SELECTボタンを押して「時」の数値を点滅させます。

● SELECTボタンを押すごとに「時」「分」「：（コロン）」の順に点滅している数値が移動します。

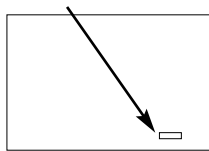
7 ADJUSTボタンを押して「時」の数値を「15」に合わせます。

8 操作手順の6と7を参考に「分」をセットし、SELECTボタンを2回押して「時」「分」の数値を点灯させます。

●SELECTボタンを1回押すと「：」の点滅になり、さらにもう1回押して「：」と「━」が点灯すれば時刻の修正は完了です。

- 時刻を正確に合わせたい場合、「日」「時」「分」が点灯し「：」が点滅しているときにADJUSTボタンを押すと、秒は00秒からスタートします（ただし秒の表示は行われません）。
  例：13時00分00秒にセットする場合
  時刻の表示を13：00にセットし、「：」を点滅状態にしておき、実際の時刻が13時00分00秒になると同時にADJUSTボタンを押すと、13時00分00秒から時計がスタートします。
- カメラの電池はデート機能の電源も兼ねています。電池を交換する場合は、約15分以内に電池を交換すれば交換前の日付と時刻は記憶されますが、電池を抜いた状態が約15分以上続きますと、日付と時刻はリセットされます。リセットされた場合は、日付と時刻を合わせ直してください。

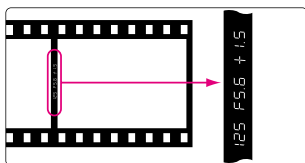
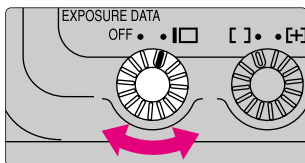
■日付と時刻の写し込み方法

MODEボタンを押して写し込む日付・時刻を表示させ、撮影します。

- データ表示窓に表示されているデータが写し込まれます。「写し込みなし」の「- -- -- -」を表示させると写し込みは行われません。なお、データ写し込みのフィルム感度連動範囲はISO32～3200です。
- フィルムが入った状態では、シャッターがきれると同時に「━」（写し込み）マークが約2～3秒間点滅して写し込みが行われたことを知らせます。

メモ **日付と時刻の写し込み位置について**

日付と時刻は、フィルム上の図の位置に写し込まれます。この位置に白、オレンジ、黄色等の明るいものがあると、写し込まれたデータが判読しにくくなることがありますので注意してください。

撮影データの写し込みについて（F80Sのみ）

■F80Sは、撮影時に「シャッタースピード」・「絞り値」・「露出補正値（セットした露出補正値）」の3つの撮影データをフィルムのコマの間に写し込むことが可能です（どの露出モードでも写し込みは行えます）。

コマ間データ写し込みダイヤルをスライドさせて、コマ間データ写し込みにセットします。

- この状態で撮影を行うと、フィルムのコマの間にファインダー内に表示された「シャッタースピード」・ファインダー内に表示された「絞り値」・撮影者がセットした「露出補正値」の3つの撮影データが写し込まれます。オートブラケティング撮影時にセットされた補正ステップは写し込まれません。また、写し込まれる露出補正値に補正ステップは加算されません。
- CPU内蔵ニッコール以外のレンズ装着時の「絞り値」の写し込みはF-- となります。
- コマ間データ写し込みのフィルム感度連動範囲は、ISO25～3200です。
- 現像処理作業の段階でホルダー収納のためフィルムを裁断する際、フィルムのコマの間に写し込まれたデータや、場合によっては撮影画面が切断されてしまうことがあります。このようなことを避けるために現像をご依頼の際は、コマ間データや撮影画面が切断されない長巻きなどの処置を事前に指示してください。
- コマ間データ写し込みをセットした場合、フィルム給送モードを連続巻き上げにセットしても、巻き上げ速度が遅くなる場合があります。なお、巻き上げ速度が遅くなる条件はフィルム感度と温度に依存し、フィルム感度が低いほど、また、温度が低いほど巻き上げ速度が遅くなるようになっています。
- コマ間データ写し込みには液晶を使用しています。液晶の応答性の関係上、データの切り換わりと撮影動作が重複した場合には、切り換わる前のデータが写し込まれたり、データが二重に写し込まれることがありますので、特に連続的に撮影を行う場合には、データの切り換わりを確認してから撮影してください。この現象は液晶の性質上、特に低温時に発生しますので、ご注意ください。また、被写体の輝度が変化しているとき、シャッタースピードまたは絞り値が切り換わっているときには、正しい写し込みが行われないことがあります。

CSM 19：コマ間データ写し込みを行うと、装てんされているフィルムの感度に合わせて自動的に写し込み感度を設定して、写し込みを行いますが、撮影者自身が意図的に写し込み感度を設定できるように変更できます（CSM 19は、コマ間データ写し込みをセットしたときのみ表示されます **☞ P.77****）。**

資料編

別売りアクセサリー、
カメラと電池の取り扱いについて、
仕様、索引などが書かれています。

別売りアクセサリーについて

■このカメラにはバッテリーパック、スピードライトなど、撮影領域を拡げる様々なアクセサリーが用意されています。

●バッテリーパックMB-16

- F80D／F80Sに装着すると、単3形電池（アルカリ、リチウム、ニカド、ニッケル水素）各4本が使用できます。特に単3型リチウム電池を使用すると、撮影可能フィルム本数が増すとともに、低温時でも安定した性能が得られます（ただしMB-16を装着しても連続撮影時のフィルム巻き上げ速度はカメラ単体の場合と変わりません）。

●接眼補助レンズ

- 遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部に差し込むだけで簡単に取り換えができます。－5、－4、－3、－2、0、＋0.5、＋1、＋2、＋3m^{-1}の9種類が用意されていますが、いずれもボディとの合成視度で補助レンズ単体の視度ではありません。視度補正は個人差が大きいので店頭で実際に付けてお選びください。F80D／F80Sでは、視度調節機能が内蔵されております（－1.8〜＋0.8m^{-1}）ので、この範囲外の視度補正が必要な時にご使用ください。なお、接眼補助レンズ使用時は、付属の接眼目当ては使用できません。

●交換レンズ

- F80D／F80Sには交換レンズとして14mmから600mmまでの広角、望遠、ズーム、マイクロ、DC（デフォーカスイメージコントロール）レンズなど様々なAFニッコールレンズが用意されています。

●フィルター

- ニコンフィルターは、ねじ込み式、後部交換式、および組み込み式の3つの形式に大別できます。F80D／F80Sの場合は、R60を除いて実用上露出倍数を考慮する必要はありません。R60を使用する場合は+1段の露出補正をしてください。また、市販の特殊フィルター等をご使用の場合、オートフォーカスやフォーカスエイド撮影が行えないことがありますのでご注意ください。
- F80D／F80Sの測光系の特性上、従来の偏光フィルター（Polar）は使用できませんので円偏光フィルター（C-PL）をご使用ください。
- フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、L37C、またはNCフィルターの使用をおすすめします。
- 逆光撮影の際や輝度の高い光源が画面に入ったりする時は、場合によりフィルターによってゴーストが発生するおそれがありますので、フィルターをはずして撮影することをおすすめします。

●ケーブルレリーズAR-3

- レリーズソケットにケーブルレリーズAR-3を使用して撮影すると、夜景や天体撮影、接写撮影など低速シャッター時の手ブレ防止の効果があります。

●ニコンスピードライトSB-800・SB-50DX・SB-30

- ニコンスピードライトSB-800はガイドナンバー38（マニュアル時、照射角35mm、ISO100・m表示、20℃）で通常は単3形アルカリ乾電池を4本（付属の増設電池パックSD-800装着時は5本）使用しますが、外部電源(別売)としてSD-6、7、8A、パワーブラケットSK-6もご使用になれます。このカメラと組み合わせて使用するとバウンス撮影や内蔵スピードライトを主灯としたワイヤレス増灯撮影、外部自動調光によるスピードライト撮影などが行えます。
- ニコンスピードライトSB-50DXはガイドナンバー22（マニュアル時、照射角35mm、ISO100・m表示、20℃）で、3Vリチウム電池（CR-123AまたはDL123A）を2本使用します。このカメラと組み合わせて使用するとバウンス撮影や内蔵スピードライトを主灯としたワイヤレス増灯撮影などが行えます。また、SB-50DXをカメラのアクセサリーシューに装着したまま内蔵スピードライトとの2灯発光撮影も行えます。
- ニコンスピードライトSB-30はガイドナンバー16（マニュアル時、照射角28mm、ISO100・m表示、20℃）で、3Vリチウム電池（CR-123AまたはDL123A）を1本使用します。このカメラと組み合わせて使用すると内蔵スピードライトを主灯としたワイヤレス増灯撮影や外部自動調光によるスピードライト撮影などが行えます。

●スレーブフラッシュコントローラーSU-4（SG-2付）

- F80D／F80Sにスピードライトを装着し、さらに別のスピードライトにスレーブフラッシュコントローラーSU-4を装着すれば、ワイヤレスでカメラのスピードライトの発光と同時にSU-4付きスピードライトも発光させることができ、ワイヤレスでTTL調光による増灯撮影が行えます。減光アダプターはSU-4に付属されているSG-2をご使用ください。SG-1はご使用できませんので、SG-1をお持ちのお客さまは当社サービス機関にご相談ください。
- F80D／F80Sの内蔵スピードライトをマスタースピードライトとして使用する場合は、カメラの露出モードをMにセットするか、測光モードをスポット測光にセットしてモニター発光をキャンセルしてください。

●専用セミソフトケース（CF-59／CF-60）

- F80D／F80Sには専用ケースとして、CF-59（標準用）と、CF-60（望遠用）が用意されています。CF-59はAFニッコール28～200mm f/3.5～5.6D IF、CF-60はAFニッコールED70～300mm f/4～5.6Dよりそれぞれ小さいレンズを取り付けた状態で収納できます。

●ネックストラップ／ハンドストラップAH-4

- ネックストラップはあみひも製のAN-4Y、AN-4B、および幅の広いAN-6Y、AN-6Wがあります。色はAN-4Bが黒、AN-4Y、AN-6Yが黄色、AN-6Wがワインカラーです。
- ハンドストラップはカメラのホールディングを確実、容易にし速写性を向上させます。

カメラと電池の取り扱いについて

■カメラの取り扱い

●カメラ本体をお手入れする際の注意

カメラ本体のお手入れは、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払った後、柔らかい清潔な布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた布で軽く拭いて乾かしてください。また、カメラの清浄にシンナーやベンジンなどの有機溶剤を使用しないでください。製品を破損する恐れがあります。
まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気で表示パネルか点灯したり、黒く変色したりしますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

●ミラーやレンズを手入れする際の注意

ミラーやレンズにゴミやホコリが付いているときは、キズが付きやすいので、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払う程度にしてください。
レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせ、軽く拭き取ってください。

●強いショックを与えないでください。

カメラおよびレンズを落としたり、ぶつけたりしないように注意してください。
強い衝撃や振動を加えますと、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

●シャッター幕に触れないでください。

シャッター幕は非常に薄い幕でできていますので、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。キズ、変形、破損などの原因となります。

●強い電波や磁気を発生する場所は避けてください。

テレビ塔のような強い電波や磁気の発生する場所では、カメラが正常に作動しなくなることがありますので注意してください。

●風通しの良い場所に保管してください。

カビや故障などを防止するために、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。

- ナフタリンや樟脳の入ったタンスの中、磁気を発生する器具のそば、極度に高温となる夏期の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

●極端な温度変化は避けてください。

温度差が極端となる所（寒い所から急に暖かい所や、その逆となる所）にカメラを持ち込むと、カメラの内外に水滴を生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからご使用ください。

●保管する際は電池を取り出し、乾燥剤といっしょにしてください。

長期間カメラを使用しないときは、電池の液漏れなどからカメラを保護するために、カメラから電池を取り出して保管してください。

- 保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤といっしょに入れておくとより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れておくと、変質することがありますので避けてください。電池は高温、多湿となる場所を避けて保管してください。
- 乾燥剤(シリカゲル)は湿気を吸って効力がなくなりますので、ときどき交換してください。

- カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがありますので、1ヵ月に1度を目安に電源を入れて数回シャッターをきってください（コンデンサーの劣化を防ぐため、スピードライトも発光させてください）。

■電池の取り扱い

放置禁止

電池は幼児の手の届かないところにおくこと

万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

●3Vリチウム電池（CR123AまたはDL123A）2本を使用してください。

電池は3Vリチウム電池（CR123AまたはDL123A）2本を使用してください。また、バッテリーパックMB-16を使用すると、1.5V単3形アルカリ乾電池または単3形リチウム電池、単3形ニカド電池、単3形ニッケル水素電池各4本が使用できます。

- 大切な撮影に際しては、早めに電池を交換するか、予備の電池を携行してください。

●電池を入れるときは、カメラの電源をOFFにしてください。

電池を入れるときは、カメラの電源スイッチをOFFにしてから、⊕⊖を間違いのないよう正しく入れてください。

- 付属の電池は購入時の作動テスト用ですので、寿命が短い場合があります。
- 電池の両極が汗や油などで汚れていると、接触不良の原因となります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。

●低温時には新しい電池を使用してください。

低温時に消耗した電池を使いますと、カメラが作動しなくなることがあります。
低温時に撮影する場合は、新しい電池を使用し、保温した予備の電池を用意して暖めながら交互に使用してください。

- 低温時は、常温時より巻き上げ速度や撮影可能本数も低下します。低温のために、一時的に性能が低下して使えなかった電池でも、常温に戻ると使える場合があります。

●電池を火の中に投入したり、ショートさせないでください。

電池を火の中に投入したり、ショートさせたり、分解、加熱、充電したりしないでください。

故障かな？と思ったら（修理を依頼される前に）

■表示パネル、ファインダー内表示に警告表示が点灯または点滅した場合は、修理を依頼される前に、次のことをご確認ください。

こんなとき		原　因	対処方法	参照ページ
表示パネル	ファインダー内表示			
FEE（点滅）	FEE（点滅）	●レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。	●レンズの絞りリングを最小絞りにしてください。	P.21
FEE（点滅）	FEE（点滅） P（点滅）	●カメラの露出モードがPモードで別売りスピードライトがTTLモード以外にセットされています。	●露出モードをPモード以外にセットするか、別売りスピードライトをTTLモードにセットしてください。	P.89
（電池マーク）（点灯）		●電池容量がわずかです。	●予備の電池を用意してください。	P.18
（電池マーク）（点滅）		●電池が消耗しています。	●電池を交換してください。	P.18
（電池マーク）（点滅） Err（点滅）	Err（点滅）	●フィルム巻き上げ途中で電池消耗によりモーターが停止しています。	●新品電池に交換または充電池の場合は再充電し、電源を再度ONにしてください。頻繁に警告が表示される場合は、当社サービス機関にお問い合わせください。	P.18
F--（点滅）	F--（点滅）	●CPU内蔵ニッコール以外のレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていません。	●CPU内蔵ニッコール（IXニッコールを除く）を使用してください。ただし、Mモードにセットして、レンズの絞りリングで絞りをセットすれば撮影できます。	P.20 P.36
Err（点滅） E（点滅）	Err（点滅） E（点滅）	●フィルムが正しく送られていません。	●フィルムを取り出して入れ直してください。	P.23
DX（点滅） Err（点滅）	Err（点滅）	●フィルム感度をDXにセットした状態でDXマークがないフィルムが入っています。	●DXマーク付フィルムに入れ換えるか、フィルム感度を手動でセットしてください。	P.23 P.38

こんなとき		原　因	対処方法	参照ページ
表示パネル	ファインダー内表示			
E（点滅）	E（点滅）	●フィルム巻き戻し完了後、フィルムを取り出さずにおくと、半押しタイマーが作動中は点滅します（いったん非作動になると点灯します）。	●フィルムを取り出してください。	P.31
End（点滅）	End（点滅）	●撮影フィルムが終了しています（カスタムセッティング1をセット時）。	●2つのフィルム巻き戻しボタンを同時に押してフィルムを巻き戻してください。	P.31 P.38 P.73
	●（点滅）	●オートフォーカスでピント合わせができません。	●マニュアル（手動）でピント合わせを行ってください。	P.49
HI（点灯）	HI（点灯）	●被写体が明るすぎて、カメラの露出制御範囲を超えています。	●Pモード時はND（光量調節用）フィルターを使用してください（S、Aモード時に下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 ●Sモード時はシャッタースピードをより高速側にセットしてください。 ●Aモード時はより大きい数値の絞りにしてください。	P.52～57 P.55 P.57
Lo（点灯）	Lo（点灯）	●被写体が暗すぎて、カメラの露出制御範囲を超えています。	●Pモード時はスピードライトを使用してください（S、Aモード時に下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 ●Sモード時はシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 ●Aモード時はより小さい数値の絞りにしてください。	P.52～57 P.55 P.57
	露出インジケーター（点滅）	●被写体が明るすぎたり、暗すぎたりして、カメラの露出制御範囲を超えています。	●明るすぎる場合はND（光量調節用）フィルターを使用してください。暗すぎる場合はスピードライトを使用してください（露出インジケーターは点滅した状態のままとなります）。	P.59

こんなとき		原　因	対処方法	参照ページ
表示パネル	ファインダー内表示			
bulb（点滅）	bulb（点滅）	●露出モードがSモード時にシャッタースピードがbulbにセットされています。	●シャッタースピードをbulb以外にセットするか、Mモードにセットしてください。	P.54 P.67
セットしたシャッタースピード（点滅）	125（点灯）	●露出モードがS、Mモード時にシャッタースピードが同調スピードより高速にセットされています。	●シャッタースピードは自動的に1/125秒に切り換わりますので、そのまま撮影が行えます。	P.84
	ϟ（点滅）	●発光直後の約3秒間の点滅は、フル発光して露出不足の恐れがあります。	●撮影距離、絞り、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。	P.81 P.85
Err（点滅）	Err（点滅）	●撮影中に何らかの異常を検出しました。	●再度シャッターボタンを押してください。この操作で警告表示が解除されなかったり、頻繁に警告が表示される場合は、当社サービス機関にご相談ください。	
◘--と（点滅） フィルムカウンター（点滅）	◘--と（点滅） フィルムカウンター（点滅）	●フィルム巻き戻しの途中で裏ぶたを開けてしまいました。	●裏ぶたをすぐに閉じ、2つのフィルム巻き戻しボタン◘◂◂を同時に押してフィルムを巻き戻してください。	P.38

電子制御カメラの特性について

きわめて稀なケースとして、表示パネルに異常な表示が点灯したままカメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路内部に侵入したことが考えられます。万一このような状態になったときは、電源スイッチをOFFにして電池を入れ直し、電源スイッチをONにしてカメラを作動させてみてください。

アフターサービスと保証について

■この製品についてのお問い合わせは

ご意見、ご質問はニコンカスタマーサポートセンターでお受けしています。

- ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご参照ください。

■修理を依頼される場合は

ご購入店、または当社サービス機関にご依頼ください。

- ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は、最寄りの販売店、または当社サービス機関にご相談ください。
- 当社サービス機関につきましては、使用説明書裏面をご参照ください。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後10年間を目安としています。

- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後におきましても、修理可能な場合もありますので、ご購入店、または当社サービス機関へお問い合わせください。
- 水没、火災、落下等による故障、または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、当社サービス機関にお任せください。

製品の保証について

① この製品には「保証書」がついていますのでご確認ください。

② 保証書はお買い上げの際、ご購入店からお客様に直接お渡しすることになっています。「ご購入者氏名」および「ご住所」「購入年月日」「購入店名」がすべて記載された保証書をお受け取りになり、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

③ 保証規定による保証修理は、ご購入日から1 年間となっております。
「保証書」をお受け取りになりませんと、上述の保証修理がお受けになれないことになりますので、もしお受け取りにならなかった場合は、ただちにご購入店にご請求ください。

④ 海外での保証内修理は領収書の提示を求められることがありますので、保証書とともに領収書の携行をお願い致します（領収書のない場合は有料となる場合があります）。

⑤ 保証期間経過後の修理は、原則として有料となります。また、運賃諸掛かりはお客様にご負担願います。

⑥ 保証期間中や保証期間経過後の修理、故障など、アフターサービスについてご不明なことがございましたら、ご購入店、または当社サービス機関へお問い合わせください。

仕様

型式	モーター、スピードライト内蔵35mm一眼レフレックス電子制御式フォーカルプレーンシャッターオートフォーカスカメラ
露出制御	**P** ：マルチプログラムオート（プログラムシフト可能） **S** ：シャッター優先オート **A** ：絞り優先オート **M** ：マニュアル
画面サイズ	24 X 36mm
レンズマウント	ニコンFマウント（AFカップリング、AF接点付）
交換レンズ	・DタイプまたはGタイプAFニッコール：AFなどフル機能使用可 ・PCマイクロニッコール85mmF2.8D：オートフォーカスおよび露出モード（**P**、**S**、**A**）を除く機能使用可（あおり操作時を除く） ・DタイプおよびGタイプ以外のAFニッコール（F3AF用を除く）：3D-10分割マルチパターン測光を除く機能使用可 ・Ai-Pニッコール：3D-10分割マルチパターン測光およびオートフォーカスを除く機能使用可 ・DXおよびIXニッコール：使用不可 ・CPU内蔵ニッコール以外：露出モードは**M**モードで可（露出計は使用不可）、開放F値が f/5.6以上明るい場合フォーカスエイド可
ファインダー	・アイレベル式ペンタプリズム使用、視度調節機構内蔵（-1.8～$+0.8m^{-1}$）
アイポイント	17mm（$-1.0m^{-1}$時）
ファインダー スクリーン	クリアマットスクリーンⅡ（フォーカスフレーム付、構図用格子線表示可能）標準装備
ファインダー視野率	約92%（対実画面）
ファインダー倍率	約0.75倍（50mmレンズ・∞・$-1.0m^{-1}$時）
ファインダー内表示（イルミネーター付）	・ピント表示、測光モード表示、AEロック表示、シャッタースピード表示、絞り表示、露出モード表示、露出インジケーター／露出補正インジケーター、露出補正マーク、フィルムカウンター／露出補正値表示、レディライト、多重露出マーク、フォーカスエリア表示、調光補正マーク ・フォーカスフレーム（エリア）5点／スポット測光エリア、中央部重点測光エリア、構図用格子線表示可能
ミラー	クイックリターン式

レンズ絞り	瞬間復元式、プレビューボタン付
オートフォーカス	TTL位相差検出方式、マルチCAM900オートフォーカスモジュールにより検出、AF補助光付（約0.5～3m） ・検出範囲：EV -1～+19（ISO100・常温）
レンズサーボ	・S（シングルAFサーボ）、C（コンティニュアスAFサーボ）、M（マニュアルフォーカス） ・S（シングルAFサーボ）、C（コンティニュアスAFサーボ）では、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行
フォーカスエリア	5ケ所のフォーカスエリアの中から1ケ所を選択可能
AFエリアモード	・シングルエリアAFモード ・ダイナミックAFモード（至近優先ダイナミックAF機能付き）
フォーカスロック	AE/AFロックボタン、またはS（シングルAFサーボ）時シャッターボタン半押しにて可能
測光方式	TTL開放測光方式 以下の3測光モードより選択可能（使用するレンズによっては制限あり） ・3D-10分割マルチパターン測光 ・中央部重点測光：φ12mm範囲を測光（中央重点度約75%） ・スポット測光：φ4mm相当を測光（全画面の約1%）
測光範囲	3D-10分割マルチパターン測光 EV0～21 中央部重点測光 EV0～21 スポット測光 EV3～21 （常温、ISO100、f/1.4レンズ使用時）
露出計連動	CPU連動方式
露出補正	±3段の範囲で1/2段ステップで補正可能
AEロック	AE/AFロックボタンにより輝度値をロック
オートブラケティング	撮影枚数＝2枚または3枚、補正ステップ＝−2～+2段（1/2～2段ステップ）の間で可能
フィルム感度設定	・DX方式、マニュアルのいずれも可能 ・フィルム感度連動範囲：DX時：ISO25～5000、マニュアル時：ISO6～6400、1/3段ごとにセット可能

シャッター	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター
シャッタースピード	・**P**、**A**モード時：30～1/4000秒 ・**S**モード時　　：30～1/4000秒（1/2段ステップ） ・**M**モード時　　：30～1/4000秒（1/2段ステップ）、buLb
シンクロ接点	・X接点のみ、1/125秒以下の低速シャッタースピードでスピードライトに同調
内蔵スピードライト	押しボタン操作による手動ポップアップ方式 ガイドナンバー12（ISO100・m、常温） 照射角28mmレンズの画角をカバー フィルム感度連動範囲：ISO25～800
スピードライトの調光方式	TTL自動調光5分割センサー 一体型ICによる以下の調光制御 ・マルチエリアBL調光：内蔵スピードライトおよび別売りスピードライトとDタイプまたはGタイプニッコールレンズの組み合わせにより3D-マルチBL調光可能。また、DタイプおよびGタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズの組み合わせ時にはマルチBL調光可能 ・TTL調光：内蔵スピードライトおよび別売りスピードライトとCPU内蔵ニッコール以外のレンズを組み合わせた場合、または内蔵スピードライトおよび別売りスピードライトとCPU内蔵ニッコールレンズを装着して、露出モードをM（内蔵スピードライト使用時）、または測光モードをスポット測光にした場合に可能 TTL調光時のフィルム感度連動範囲：ISO25～1000 ※詳細はP.80、88をご覧ください。
シンクロモード	先幕シンクロ・赤目軽減・赤目軽減スローシンクロ・スローシンクロ・後幕シンクロ設定可能
レディライト	内蔵スピードライトおよび別売りスピードライト使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅警告
アクセサリーシュー	ホットシュー装備（シンクロ接点、レディ信号接点、TTL調光ストップ信号接点、モニター信号接点、GND付）、セーフティロック機構（ロック穴）付
セルフタイマー	電子制御式、作動時間10秒
プレビューボタン	プレビューボタンにより絞り込み可能
フィルム装填	順巻式イージーローディング、フィルムセット完了後、裏ぶたを閉じることによりフィルムカウント1まで自動空送り（シャッター、ミラーは不作動）

フィルム巻き上げ	・内蔵モータによる自動巻き上げ、S、連続切り換え可能 ・巻き上げ速度（フォーカスモードM、露出モードM、1/125秒以上の高速シャッタースピード、F80Sはコマ間データ写し込み非設定、36EX平均値） S ：1コマ巻き上げ 連続 ：連続巻き上げ 約2.5コマ/秒（新品電池使用時）
フィルム巻き戻し	・内蔵モータによる自動巻き戻し ・巻き戻し時間（36EX）：約15秒（高速巻き戻し、新品電池使用時） ：約23秒（サイレント巻き戻し、新品電池使用時）
多重露出	給送モードセレクトダイヤルの操作で可能
表示パネル情報（イルミネーター付）	・DXマーク、シャッタースピード／露出補正値表示、絞り表示、露出補正マーク、調光補正マーク、ブラケティングマーク、ブラケティングバーグラフ、カスタムマーク、プログラムシフトマーク、シンクロモード表示、AFエリアモード表示、フォーカスエリア表示、バッテリーチェック表示、フィルムカウンター
クォーツデート	・液晶表示によるクォーツデジタルウォッチ内蔵（24時間制、時計精度月差±90秒以内） ・フィルム感度連動範囲：ISO32〜3200（DX方式による自動設定） ・データ（年月日・日時分・月日年・日月年・写し込み解除）、月末、うるう年自動修正（2049年12月31日まで対応）
写し込みデータ機能（F80Sのみ）	・コマ間データ写し込みダイヤルで設定 ・写し込みデータ：シャッタースピード、絞り値、露出補正値（設定した露出補正値） ・写し込み位置：コマ間
裏ぶた	蝶番式、フィルム確認窓付、AFエリアモードセレクトダイヤル、フォーカスエリアセレクター、データ表示窓、データバック、コマ間データ写し込みダイヤル（F80Sのみ）装備
電源	3Vリチウム電池（CR123AまたはDL123A）2本使用、バッテリーパックMB-16により単3形電池（アルカリ、リチウム、ニカド、ニッケル水素）各4本使用可能
電源スイッチ	電源ON、OFFの2ポジション
レリーズソケット	シャッターボタンに装備

半押しタイマー	電源スイッチON後半押しタイマーが作動し、無操作状態で6秒後非作動 電源ON時はシャッターボタンの半押し及びAF作動ボタン等の操作に連動して半押しタイマーが作動
バッテリーチェック	半押しタイマーが作動中で、表示パネルにバッテリーチェック表示を以下の3段階で表示 ・[電池マーク]：点灯（電池容量充分） ・[電池マーク]：点灯（電池消耗） ・[電池マーク]：点滅　交換表示（表示消灯時も電池交換）
撮影可能フィルム本数（36枚撮り）	36枚撮りフィルム、フォーカスモードC、1/125秒以上の高速シャッタースピード、半押しを6秒間持続させた後、無限遠から至近間を1往復し、シャッターレリーズ後2秒間（内蔵スピードライト使用時は6秒間）の半押しタイマーが切れるまで放置して、同じ動作を繰り返して実施。[ ] 内は内蔵スピードライトを50%発光させた場合 ・装着レンズAF 28-80mm f/3.5-5.6D〈New〉 常温（20℃）時 ：約50本［15本］ 低温（-10℃）時：約35本［10本］ ・装着レンズAF28-105mm f/3.5-4.5D（IF） 常温（20℃）時 ：約40本［12本］ 低温（-10℃）時：約30本［10本］
バルブ撮影時連続撮影時間	約6時間（常温、新品リチウム電池使用時）
三脚ネジ穴	1/4（ISO1222）
カスタムセッティング機能	下記18項目（F80D）、19項目（F80S）のカスタムセッティングが可能 (1)　フィルム終端時の自動巻き戻し (2)　フィルム交換時のフィルム感度自動設定復帰 (3)　オートブラケティング撮影時の補正順序の変更 (4)　構図用格子線表示 (5)　フォーカスエリアの照明 (6)　フォーカスエリアの選択を循環方式に変更 (7)　シャッターボタンの半押しによるAEロック (8)　裏ぶたを閉じるとフィルムの空送りを開始 (9)　S（シングルAFサーボ）での至近優先ダイナミックAF (10)　C（コンティニュアスAFサーボ）での至近優先ダイナミックAF (11)　AE／AFロックボタン操作による同時ロック、単独ロック、AEロックの維持、AF作動の開始 (12)　コマンドダイヤルの機能変更

カスタム セッティング機能	(13)　フィルム巻き戻し方法の変更 (14)　多重露出撮影時の撮影方法の変更 (15)　半押しタイマーの作動時間の変更 (16)　セルフタイマーの作動時間の変更 (17)　各ボタンの操作によるイルミネーターの点灯 (18)　内蔵AF補助光の照射 (19)　コマ間データ写し込み時のフィルム感度のセット（F80Sでコマ間データ写し込みセット時のみ設定可能）
ツーボタンリセット機能	オートブラケティングボタン BKT と露出補正ボタン ☒ を同時に約2秒間押す動作により、一部機能を除き、各機能のセット状態を一括して初期状態にリセット可能
大きさ	F80D：約141.5mm（幅）×98.5mm（高さ）×71.5mm（奥行） F80S：約141.5mm（幅）×98.5mm（高さ）×73.5mm（奥行）
質量（重さ） （ボディのみ、電池を除く）	F80D：約520g F80S：約525g
別売り 専用アクセサリー	バッテリーパックMB-16、セミソフトケースCF-59/60

＊仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、すべて常温（20℃）、新品3Vリチウム電池使用時のものです。

仕様、外観の一部を、改善のため予告なしに変更することがあります。

索引 五十音順［操作ボタン・レバーおよび表示等は、各部の名称（☞ P.2）

英数

あ

か

さ

資料

カスタムセッティング機能一覧

	機能	セット内容
1	フィルム終端時の自動巻き戻し	0：する（初期値） 1：しない
2	フィルム交換時のフィルム感度自動設定復帰	0：する(初期値) 1：しない
3	オートブラケティング撮影時の補正順序の変更	0：初期設定の順（☞ P.64） 1：マイナス側からプラス側へ
4	構図用格子線表示	0：格子線を表示しない（初期値） 1：格子線のみを表示する
5	フォーカスエリアの照明	0：輝度により自動照明する（初期値） 1：照明しない 2：輝度によらず照明する
6	フォーカスエリアの選択を循環方式に変更	0：しない（初期値） 1：する
7	シャッターボタン半押しによるAEロック	0：しない（初期値） 1：する
8	裏ぶたを閉じるとフィルムの空送りを開始	0：する（初期値） 1：しない
9	S（シングルAFサーボ）での至近優先ダイナミックAF	0：する(至近優先ダイナミックAF・初期値) 1：しない
10	C（コンティニュアスAFサーボ）での至近優先ダイナミックAF	0：しない（初期値） 1：する（至近優先ダイナミックAF）
11	AE／AFロックボタン操作による同時ロック、単独ロック、AEロックの維持、AF作動の開始	0：AE・AFの同時ロック（初期値） 1：AEロックのみ 2：AFロックのみ 3：AEロックの維持 4：AF作動

	機能	セット内容
12	**コマンドダイヤルの機能変更**	0：しない（初期値） 1：する
13	**フィルム巻き戻し方法の変更**	0：高速巻き戻しモード（初期値） 1：サイレント巻き戻しモード
14	**多重露出撮影時の撮影方法の変更**	0：1コマ撮影（初期値） 1：連続撮影
15	**半押しタイマーの作動時間の変更**	4：4秒　8：8秒 6：6秒（初期値）　16：16秒
16	**セルフタイマーの作動時間の変更**	2：2秒　10：10秒（初期値） 5：5秒　20：20秒
17	**各ボタンの操作による イルミネーターの点灯**	0：しない（初期値） 1：する
18	**内蔵AF補助光の照射**	0：する（初期値） 1：しない
19	**コマ間データ写し込み時のフィルム感度のセット（F80Sでコマ間データ写し込みセット時のみ設定可能）**	0：自動設定（初期値） 1：ISO25以下 2：ISO32～80 3：ISO100 4：ISO125～200 5：ISO250以上

［セット方法］
露出モードダイヤルを **CSM** にセットして、メインコマンドダイヤルでメニューナンバーを選択し、サブコマンドダイヤルで表示パネルに希望するセット内容の数字を点灯させます。詳細はP.72～77をご覧ください。

技術的なお問い合わせのご案内

内容および操作に関する技術的なお問い合わせは、下記ニコンカスタマーサポートセンターをご利用ください。

ニコンカスタマーサポートセンター

0570-02-8000

市内通話料金でご利用いただけます。

全国共通電話番号 **0570-02-8000** にお電話を頂き、音声によるご案内に従いご利用の製品グループ窓口の番号を入力して頂ければ、お問い合わせ窓口担当者よりご質問にお答えさせて頂きます。

営業時間 9:30～18:00 ＜年末年始、夏期休業等を除く毎日＞

携帯電話、PHS等をご使用の場合は、**03-5977-7033** におかけください。
FAXでのご相談は、**03-5977-7499** におかけください。

株式会社 ニコン
ニコンカメラ販売株式会社

Printed in Thailand

KL3K07(10)